

9 『少年ラヂオ』 成井豊十 隈部雅則

○ ジャンル / ストレートプレイ

○ ストーリー / 大正15年12月。小林ラヂオは17歳。3年前の関東大震災で両親を亡くし、弟のコテツとともに親戚の家に引き取られたが、朝から晩まで扱き使われる生活に嫌気が差し、家を出る。しかし、仕事は見つからず、今は手先の器用さを活かして、スリをしている。ある日、ラヂオは上野駅で、他のスリに財布をすられて困っていた娘と出会う。娘の名は春日美汐。有名な春日財閥の一人娘だった……。

○ 出演者 / 男8 + 女7 || 計15

○ 上演時間 / 120分

登場人物

ラヂオ

(スリ)

明智

(自称・私立探偵)

美汐

(春日家の令嬢)

潔

(美汐の叔父)

朋子

(潔の妻)

大牟田

(潔の後輩)

筑紫野

(春日家の執事)

藤子

(カフェー新世界の女給)

つるよ

(カフェー新世界の店主)

いね

(スリ集団・カマイタチの頭)

金之助

(いねの息子)

夏

(いねの娘)

林太  
田川  
コテツ

(いねの息子)  
(ラヂオのアナウンサー)  
(ラヂオの弟)

日暮里の商家の裏口。コテツがやってくる。手には風呂敷包み。

コテツ あーあ、腹減ったなあ。

そこへ、ラヂオがやってくる。

ラヂオ コテツ。

コテツ あ、兄ちゃん！

ラヂオ お使いか？

コテツ うん。築地の問屋さんに、見本を返しに。

ラヂオ そうか。じゃ、停留場まで付き合うぜ。

コテツ 俺、停留場には行かない。市電には乗らないから。

ラヂオ あのババア、日暮里から築地まで歩いていけって言ったのか？

コテツ この頃、景気が良くないみたいで。だから、儉約だつて。

ラヂオ 何が儉約だ。自分の娘には何でも好きな物を買ってやるくせに。おまえだつ

コテツ て、あのババアから見たら、甥っ子なんだぞ。電車賃ぐらい出してくれば、

コテツ 言えばいいじゃねえか。ダメだよ。そんなこと言ったら、また叩かれる。

ラヂオ  
コテツ  
ラヂオ  
コテツ  
ラヂオ  
コテツ  
ラヂオ  
コテツ  
ラヂオ  
コテツ  
ラヂオ  
コテツ  
ラヂオ  
コテツ  
ラヂオ  
コテツ  
ラヂオ  
コテツ  
ラヂオ  
コテツ  
ラヂオ  
コテツ

すまねえな。おまえにばっかり、辛い思いをさせて。そうだ。これ、お土産。  
(とキャラメルの箱を差し出す)

キャラメルだ！ ……いいの？

おまえのために買ってきたんだよ。ほら、食べ。

ありがとう！(と受け取り、一粒取り出す)

ケツ、ガツガツしやがって。おまえ、飯はちゃんと食わしてもらってるのか？

兄ちゃんこそ、どうなんだよ。

俺か？ 聞いて、驚くなよ。俺は今、浅草の新世界ってレストランで働いて

るんだ。飯は毎日、洋食だ。カツレツとか、ハヤシライスとか。

いいなあ。

その内、おまえにも食わせてやるさ。今はキャラメルで我慢しろ。

うん。(とキャラメルを口に入れる)

どうだ。うまいか？

うまい。兄ちゃんも食べる？

いらねえよ。キャラメルなんざ、毎日、飽きるほど食ってるからな。

レストランは景気がいいんだね。じゃ、お金も貯まった？

ああ。でも、いろいろ付き合があるから、出費も多くて。まあ、心配する

な。五百円なんて端金、一年もすれば貯まる。

そのセリフ、前も言ったね。

そうか？

言ったよ。兄ちゃんがここを出ていった時。「五百円なんて端金、一年もす

れば貯まる」って。あれから、もうすぐ一年だよ。

悪いが、一年、延長してくれ。来年の十二月までに、必ず五百円貯める。貯

めたら、必ずおまえを迎えに来る。ババアの面に銭を叩きつけて、言つてやる。「これで文句はねえだろう。コテツは俺が連れてくぜ」って。

コテツ

ラヂオ

コテツ

ラヂオ

コテツ

ラヂオ

コテツ

お婆さん、悔しがるだろうな。一年なんざ、あつという間だ。それまで、辛抱できるか？ できるに決まってるだろう？ じゃ、俺、行つてくる。(と歩き出す) コテツ！ 今度来る時は、何がほしい。何でもほしい物を言つてみる。俺、本がほしい。

おまえ、本なんか読むのか？

番頭さんが大好きでね。読み終わった本を貸してくれるんだ。でも、漱石とか芥川とか、堅っ苦しいのばかりで。今、一番読みたいのは、『月世界旅行』って本。知ってる？

ラヂオ

コテツ

ラヂオ

ああ、『月世界旅行』ね。よし、任しとけ。今度来る時、必ず持つてきてやる。約束だ。  
うん。

コテツが去る。ラヂオが歩き出す。たくさんの人々が通り過ぎる。ラヂオがその間を擦り抜ける。一人が財布を掏られたことに気づく。ラヂオの後を追いかける。それでも、ラヂオは歩き続ける。やがて、すべての人々がラヂオを追い始める。が、ラヂオは巧みに身をかまし、まんまと逃げ果せる。

本郷の春日邸の玄関。美汐がやってくる。後を追って、筑紫野がやってくる。

筑紫野

お嬢様、どちらへおいでですか？

美汐

筑紫野、あなたにお願いがあるの。

筑紫野

はい、何でございましょう。

美汐

あなたはここで私に会わなかった。話もしなかった。そういうことにしてちょうだい。

筑紫野

そう仰られても、現にこうして話をしているわけですし。

美汐

だから、その記憶を消すのよ。じゃあね。(と歩き出す)

筑紫野

お待ちください、お嬢様。まさかとは思いますが、どこかへお出かけになる

美汐

おつもりではないでしょうね？

筑紫野

いけないに決まっています。潔様のお言いつけをお忘れになったのですか？

美汐

体が元に戻るまでは、外出を控えるようにと。

筑紫野

私はもう健康です。

美汐

それを判断するのは、潔様です。さあ、お部屋へお戻りください。

筑紫野

ねえ、筑紫野。私がこの屋敷に来て、もう三年も経つよ。その間、一度も

美汐

外に出たのよ。だから、お願い。見逃して。

筑紫野  
美汐

そんなことをしたら、潔様に叱られます。  
叔父様には、知らなかったと言えればいいじゃない。大丈夫よ。部屋のラヂオをつけっぱなしにしてきたから。叔父様は、私がラヂオを聞いてると思うでしょう。じゃあね、筑紫野。

美汐が走り去る。筑紫野が「お嬢様！」と叫びながら、後を追う。反対側から、朋子がやってくる。

朋子  
筑紫野

筑紫野、大きな声を出すのはやめなさい。はしたない。  
申し訳ありません、朋子様。

朋子

美汐さんはどこにいるの？ 部屋を覗いたら、ラヂオがつけっぱなしになっていたわ。全く、だらしないんだから。

筑紫野  
朋子

それがその、お嬢様は今、屋敷の外へ……。  
まさか、外へ出ていったの？ 筑紫野！ あなた、なぜ止めなかったの！

そこへ、潔がやってくる。

潔  
朋子  
築紫野  
築紫野  
築紫野

朋子、大きな声を出さないでくれ。筑紫野が怯えている。

あなた、美汐さんが。

話は聞こえた。(筑紫野に) 美汐はどこへ行くか、言っていたか。

いいえ、何も。

金は持っていったのか。

おそらくお持ちなつてはいないと思います。この屋敷の中にいる限りは、遣

潔　　う必要がございませんから。  
ということは、市電にも円タクにも乗れないわけだ。走っていけば、追いつけるんじゃないか？

筑紫野　それはつまり、私に追いかけるということですね？　承知いたしました。

筑紫野が走り去る。

潔　無理をして、熱でも出さなければいいが。

朋子　そうだったら、自業自得よ。帰ってきたら、厳しく叱ってくださいね。  
わかつてるよ。しかし、美汐はどこへ行ったのかな。知り合いなんて、一人もないのに。

朋子　あの子ももう年頃だもの。銀座でお買い物でもするつもりなんでしよう。  
金もないのにな？

潔・朋子が去る。

上野駅。美汐・筑紫野がやってくる。周囲を見回す。

美汐　すごい人ね。

筑紫野　上野駅は、東京でも一二を争うターミナルでございませうから。お嬢様、ご気分は？

美汐　するぶる快調。いろんな人が歩いていて、こうして見ているだけでも楽しい。

筑紫野、今、何時？  
（懐中時計を出して）午後四時十五分です。



美汐 どうしよう。約束の時間は四時だったのに。筑紫野、上野公園はどっち？  
筑紫野 お嬢様、私はお嬢様を連れ戻しに来たんですよ。それなのに、なぜ道案内を

美汐 しなければならぬんです。  
筑紫野 いいから、教えてちょうだい。上野公園はどっち？

美汐 知りません。  
筑紫野！

筑紫野 本当に知らないんです。実を申しますと、私も上野に来るのは初めてです。

そこへ、夏がやってくる。

夏 （筑紫野に）すみません、上野公園はどっちでしょう？  
筑紫野 奇遇ですね。私も今、それを知りたいと思っただけなんです。

そこへ、金之助がやってくる。筑紫野にぶつかる。

金之助 おっと、すまねえな。（と歩き出す）  
筑紫野 （ポケットを探して）ない！（金之助に）こら、待て！

そこへ、林太がやってくる。金之助とすれ違う。

筑紫野 （金之助の腕をつかんで）君、私の財布を返しなさい。  
金之助 何の話だ？  
筑紫野 とぼけるのはやめなさい。今、私の懐から掏ったでしょう？

金之助  
筑紫野

金之助

筑紫野

美汐

筑紫野

美汐

夏

筑紫野

林太

筑紫野

金之助

美汐

金之助

筑紫野

林太

筑紫野

筑紫野

筑紫野

するってえと何か？ あんたは俺がスリだと言いたいわけか？  
その通りです。

バカ野郎！ 俺はこう見えても、江戸っ子だ。大阪弁と曲がったことはデー  
キレーなんだ。

しかし、私の財布は、あなたとぶつかつた直後に消えたんですよ。これをど  
う説明するんです。

やめなさい、筑紫野。人が見てるわ。  
しかし、お嬢様。財布がなければ、何もできない。お腹が空いても、何も食  
べられないんですよ。

絶対に取り返しなさい、筑紫野。

（筑紫野に）もう一度、ポケットを調べた方が良いんじゃない？  
（ポケットを探つて）間違はなく、ありません。

どこかで落としたんじゃないか？  
いいえ、ついさっきまで、ここにありました。（金之助に）さあ、早く返し  
なさい。

あくまでも俺が掏つたつて言うんだな？ だったら、調べてもらおうじゃね  
えか。（と床に胡座をかく）

いやだ。こんな所に座らないで。  
仕方ねえだろう、あんたのお連れさんが騒ぎ立てるんだから。ほら、ポケッ  
としてねえで、調べろよ。

（金之助の懐や袖を探つて）ない。  
なんだよ、やっぱり濡れ衣か？  
そんなはずはありません！

そこへ、ラヂオがやってくる。林太にぶつかる。

ラヂオ

おっと、すまねえな。(と歩き出す)

林太

(ポケットを探つて) ない！(ラヂオに) くら、待て！

ラヂオが走り去る。林太が後を追う。夏・金之助も後を追う。

美汐

何？ 何が起きたの？

筑紫野

わかりません。とにかく、後を追いかけてみましょう。

美汐・筑紫野が去る。

上野公園。ラヂオが走ってくる。ポケットから財布を取り出し、中身を確かめ、笑う。そこへ、金之助が走ってくる。ラヂオが走り出そうとすると、林太・夏が立ち塞がる。

ラヂオ

なんだ。おまえら、やっぱりグルだったのか。

林太

うるせえ！ 黙って、財布を返せ！

ラヂオ

まあまあ、同じスリ同士で喧嘩することもねえだろう？ ここは山分けて  
金之助 人の獲物を横取りしやがって、ただで済むと思ってるのか？

金之助がラヂオに殴りかかる。ラヂオが避ける。林太がラヂオをつかむ。ラヂオが林太の手を振り払い、走り出す。夏がラヂオの足を蹴る。ラヂオが転ぶ。林太がラヂオの体

をつかみ、起こす。金之助がラヂオに殴りかかる。そこへ、明智が飛び出す。明智が金之助の腕をつかみ、突き飛ばす。金之助が転ぶ。林太が明智に殴りかかる。明智が避ける。林太が転ぶ。

夏

何するのよ！

明智

暴力は良くないな。しかも、三人がかりってのは、かなり卑怯だ。

林太

邪魔するなよ、おっさん！

明智

おっさんだと？ あんまり舐めた口をきくと、（と手帳を出して）集団暴行

金之助

罪でしょっぴくぞ。  
クソー。（夏・林太に）行くぞ。

金之助・林太・夏が去る。ラヂオが立ち上がって、歩き出す。

明智

待て。

ラヂオ

俺は助けてくれとは言ってねえぞ。

明智

わかっているよ。だから、感謝の言葉はいらない。そのかわり、ポケットの中身を置いていけ。

ラヂオ

何の話だ？

明智

惚けるな。さっきのヤツらから横取りした、財布だ。

ラヂオ

刑事がスリの上前をハネるのか？

明智

刑事？ あ、これか？（と手帳を出して）これはただの手帳だ。

ラヂオ

うわ、きたねえ。あいつらが、すっかり信じてたぞ。

明智

早とちりした、あいつらが悪いんだ。いいから、財布を出せ。

ラヂオが歩き出す。明智がラヂオの腕をつかんで、ポケットから財布を取り出す。

ラヂオ

返せ！

明智

何が返せだ。これはおまえの物じゃないだろう。おまえ、十六か？ 十七か？ 悪いことは言わないから、スリなんかやめておけ。ろくな生き方じゃない。

ラヂオ

余計なお世話だ。

明智

我ながらそう思うよ。でも、よく考えてみる。おまえは他人に胸を張って、俺はスリだって言えるか？ たとえば、好きな女の子に。

ラヂオ

そんなのいねえよ。

明智

たとえばの話さ。おまえの大切な人に、俺はスリだって言えるなら、それはそれで立派だ。俺も口は出さない。でも、もし言えないなら、とっととやめた方がいい。

ラヂオ

おまえの指図は受けねえ。

明智

おまえは刑事が嫌いらしいがな、少なくとも、世の中の役には立ってる。犯人を捕まえれば、被害者にありがとうと言ってもらえる。こいつはなかなか気分がいいぞ。でも、スリは？ 誰かにありがとうと言ってもらえるか？

そこへ、美汐・筑紫野がやってくる。

筑紫野

（明智が持っている財布を見て）あ！ 私の財布！

明智

あなたが持ち主ですか？

筑紫野

はい。私は、本郷の春日様のお屋敷に勤めております、筑紫野と申します。

明智

ラヂオ

筑紫野

明智

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

筑紫野

ラヂオ

明智

筑紫野

ラヂオ

筑紫野

（財布を見て）確かに「筑紫野」と書いてある。どうぞ。（と筑紫野に財布を渡して）お礼は彼に言ってください。彼が取り返したんです。はあ？

ありがとうございます。助かりました。

（ラヂオに）な？ 気分がいいだろう？

（筑紫野に）俺は別に大したことはしてねえ。

そんなことはないわ。見ず知らずの人間のために、スリと戦うなんて、とても立派だと思う。良かったら、あなたの名前を教えてくださいませんか？

俺か？ 俺は小林ラヂオ。

ラヂオって、ラヂオ放送のラヂオ？

違う。ラヂオ放送が始まったのは去年だ。俺の方が早い。

そう言えば、そうね。私は春日美汐と申します。初めまして。（と右手を差し出す）

いや、こちらこそ。（と美汐の手を握ろうとする）

ラヂオさん、（と財布から一円札を出して）これはほんのわずかですが、感謝の気持ちです。お納めください。

その金、俺にくれるのか？

筑紫野さん、ラヂオ君はお金がほしくて、あなたを助けたんじゃないんですよ。

なるほど。（ラヂオに）それではせめて、食事をご馳走させてください。この辺りに、レストランはありませんかね？

ちよっと歩くけど、浅草にいい店があるぜ。俺の知り合いがやってるんだ。それはいい。（美汐に）急に走り回って、お疲れになったでしょう。レストラン

美智  
筑紫野

明智  
美智

美智  
明智  
筑紫野

明智  
美智

ランで一息入れましょう。(と歩き出す)

待ちなさい、筑紫野。私はここへ人に会いに来たのよ。

(懐中時計を出して)しかし、今は四時半。約束の時間を三十分も過ぎています。相手の方はもうお帰りになったのでしょうか。

帰ってませんよ。ここにいます。

それじゃ、私に手紙をくださったのは、あなただったんですか？

いきなり呼びつけて、すまなかつた。用件に入る前に、一つだけ確認させて

ほしい。君は、僕の顔に見覚えがないのか？

ええ。私は前にもあなたに会ってるんですか？

ああ。最後に会ったのは三年前だけだ。

それなら、覚えていらっしやるはずがない。お嬢様は三年前の震災の時、大怪我をなさいましてね。そのせいで、震災より前の記憶が全く残っていない

のです。

そうだったのか。

教えてください。あなたは一体誰なんですか？

僕は明智、私立探偵の明智小五郎だ。

浅草のカフェー新世界。藤子・つるよがやってくる。

藤子  
ラヂオ

いらっしやいませ！

藤子

なんだ、ラヂオか。大きな声を出して、損しちゃったな。

つるよ  
ラヂオ

藤子ちゃん、ガツカリするのはまだ早いよ。ラヂオ、そちらの方々は？  
お客さんだよ。ほらほら、さっさと席にご案内しろよ。

藤子  
筑紫野

言われなくても、わかっているよ。(筑紫野に) さあさあ、こちらへどうぞ。  
はいはい、お邪魔しますよ。(と周囲を見回して) それにしても、随分小さ  
なレストランですね。

藤子

いやだわ、お客さん。表の看板を見なかったんですか？　うちはレストラン  
じゃなくて、カフェーですよ。カフェー新世界。

美汐

ここはカフェーなんですか？　私、一度でいいから、カフェーに来てみたか  
ったの。ラヂオで言っていたのよ。近頃、東京ではカフェーという物が流行  
っている。カフェーの売り物は、エプロン姿の若くて美しい女給である。

筑紫野

確かにエプロン姿ですね。若くも美しくもないけど。

藤子  
ラヂオ

失礼しちゃうわ。私、こう見えても、十八ですよ。  
藤子さん、それはさすがに無理があるんじゃないかね。



藤子  
筑紫野

あんたは黙ってな。(筑紫野に) お客さんは信じてくれますよね?  
あー、お腹が空いた。すみませんが、メニューを見せていただけませんか?

つるよがメニューとお盆を持ってくる。お盆の上には、水の入ったコップが三つ。

つるよ

はい、どうぞ。(とメニューを差し出す)

筑紫野

(受け取って) ありがとうございます。お嬢様は何になさいますか?

藤子

お嬢様だって。まるで、華族のご令嬢と召使みたい。

ラヂオ

藤子さん、あんた、春日勲って知ってるか?

藤子

知ってるよ。春日財閥の当主だろう? たった一人で五十も会社を作った、

ラヂオ

日本一の成金だ。でも、この前の震災で死んだんじゃないか? たった

藤子

美汐さんはその人の娘なんだよ。

美汐

そうなの?(美汐に) ごめんなさい。私ったら、失礼なこと言っちゃって。

つるよ

別に気にしてません。あなたが仰ったことは、すべて事実ですから。それよ

つるよ

り、ラヂオ君。あなた、ここにはよく来るの? 毎日来てますよ。いろいろ雑用をやってくれます。もちろん、働いた分の

藤子

お給金は払ってますけどね。

明智

掃除をしたら三銭。お客さんを連れてきたら三銭。

ラヂオ

(ラヂオに) それで、ここへ連れてきたってわけか。

美汐

それだけじゃねえ。実際、この料理はうまいんだ。ライスカレーなんか、

つるよ

絶品だぜ。

美汐

よくわからないな。要するに、ラヂオ君はこの店員なの?

つるよ

違いますよ。ラヂオの本職は別にあるんです。

ラヂオ

つるよさん、その話はまた後で。

美汐

あら、私は聞きたいわ。

つるよ

じゃ、教えてあげますよ。この子は一見、どこにでも転がってる浮浪児ですけどね、実は手先が異常に器用なんです。

ラヂオ

つるよさん、今日もお綺麗ですね。

美汐

(つるよに)手先が器用だと、何ができるんですか？

つるよ

あら、いろいろできるじゃない。たとえば――

ラヂオ

つるよさん！

藤子

(美汐に)たとえば、機械の修理。冗談みたいな話ですけど、ラヂオは、ラ

つるよ

ヂオを直すのが得意なんです。ねえ、女将さん？

つるよ

まあね。あ、そうそう。(ラヂオに)昨夜、また壊れちゃったんだ。直して

ラヂオ

くれるかい？

藤子

はい、喜んで！(とラヂオの修理を始める)

筑紫野

(筑紫野に)それで、ご注文は何にします？

筑紫野

(ラヂオ・美汐・明智に)皆さん、ライスカレーでよろしいですか？ よろ

藤子

しいですね？(藤子に)じゃ、ライスカレーを四人前。私のは大盛りで。

藤子

はい、かしこまりました。

藤子・つるよが去る。

明智

(美汐に)それで、さっきの話の続きだけど。

筑紫野

その前に、教えてください。あなたはお嬢様とどういう関係なんですか？

明智

幼なじみですよ。僕は横浜の生まれでしてね。実家のすぐ近くに、美汐さん

美汐

明智

筑紫野

明智

美汐

明智

美汐

筑紫野

美汐

明智

筑紫野

美汐

明智

美汐

のお父さんのお屋敷があったんです。私が震災まで住んでいた家です。ね？

三階建ての大きな洋館で、庭にはブランコと滑り台と鉄棒があった。君に逆上がりを教えたのは、僕なんだ。

そうだったんですか。

（美汐に）あの屋敷は、震災の時に全焼したそうだね。

ええ。私の両親はその火事で亡くなりました。私は近所の人に助け出されたんですが、体中に火傷を負ってしまつて。意識が戻るまで、三日もかかったそうです。で、目覚めた時には、すべての記憶を失っていた。

写真は何？ それも全部、燃えたのか？

ええ。だから、私の過去を示すものは、何一つ残っていないんです。

（明智に）そんなお嬢様を引き取つてくださったのが、叔父の潔様です。潔様がお住まいになつていた本郷のお屋敷は、幸い被災を免れました。

（明智に）叔父はとても優しい人です。私を引き取るだけでなく、父の会社の切り盛りまでしてくれて。本当なら、私がしなければならぬのに。

筑紫野さん、あなたが召使になつたのは？

お嬢様が本郷のお屋敷に移られて、すぐです。最初のうちはなかなか怪我が治らなくて、ずっと寝たきりでした。今だつて、ちよつと無理をすると、すぐに熱が出る。だから、潔様は外に出るなど。

今日は特別です。だつて、明智さんからいただいた手紙の中には、この写真が入つていたんだもの。（と写真を出して、明智に）これは私ですよね？

ああ。君が十歳の時の写真だ。

この写真はあなたが撮つたんですか？

明智 美汐さん、君に兄弟はいるか？  
美汐 いません。私は一人っ子です。

明智 それは嘘だ。

美汐 嘘じゃありません。叔父は確かに――

明智 君は騙されてるんだ。君には兄が一人いる。名前は春日伊知郎。

美汐 本当ですか？

筑紫野 (明智に) 信じられません。潔様は、そんなことは一言も――

明智 (美汐に) その写真は、伊知郎が撮ったんだ。伊知郎と僕は子供の頃からの

親友だ。僕が君を呼び出したのは、伊知郎に頼まれたからなんだ。

美汐 兄は今、どこにいるんですか？ 元気なんですか？

明智 元気だとも。伊知郎は今、アメリカにいる。君にとっても会いたがってる。

ラヂオ できた！ つるよさん、直ったぜ！

ラヂオがラヂオのスイッチを入れる。藤子・つるよがやってくる。  
ラヂオ放送。別の場所に、田川がやってくる。

田川

大正十五年十二月十九日。本日の話題は、何と言っても、ポセイドン号でございませう。アメリカの豪華客船・ポセイドン号が、本日昼過ぎ、横浜港に入港いたしました。この船にはたくさんの著名人が乗っておりまして、その筆頭はロナルド・ハックマン氏。アメリカの航空機製造会社、ポイング社の社長であります。ハックマン氏の歓迎パーティーは、本日後六時から、日比谷の帝都ホテルで行われる予定。あ、もうそろそろ始まる時刻ですね。

藤子・つるよ・田川が去る。  
本郷の春日邸の玄関。潔・大牟田がやってくる。

潔　驚いたな。わざわざ僕らを迎えに来てくれたのかい？

大牟田　いや、実は先月、クライスラーの新車を買いましたね。ぜひ一度、先輩をお

乗せたいと思ってたんですよ。

潔　悪いが、僕はまだ出られないんだ。実は、二時間ほど前に、美汐が家を出て

いってね。

大牟田　なんですって？

潔　すぐに筑紫野に追わせたんだが、今のところ、連絡がないんだ。

大牟田　美汐さんは普通の体じゃないんですよ。出先で倒れでもしたら、どうするん

です。

潔　だから、こうして心配してるんじゃないか。

大牟田　警察に連絡しましょう。父の名前を出せば、すぐに動いてくれるはずですよ。

潔　しかし、これぐらいのことで大臣閣下の名前をお借りするわけには。

大牟田　のんびりしている場合ですか？　美汐さんは春日家の一人娘だ。下手をする

と、誘拐されたのかもしれない。

潔　落ち着きたまえ、大牟田君。いくら何でも、誘拐というのは考えすぎだ。

そこへ、朋子がやってくる。

朋子　あなた、美汐さんの居場所がわかったわ。

潔　筑紫野から連絡が来たのか？

朋子　いいえ。別の人から。今、浅草のカフェーにいるんですって。

潔　カフェーだつて？　なぜそんなかかわしい所に。

大牟田　美汐さんが自分で行くとは思えませぬ。悪いヤツらに騙されて、連れていかれたのかも。先輩、やっぱり、美汐さんは誘拐されたんですよ。

潔　それはまだわからないだろう。

大牟田　なぜそんなに落ち着いていられるんです。とにかく、僕は迎えに行ってきた

潔　よし、僕も行こう。

大牟田　先輩はパーティーへ行ってください。美汐さんは僕に任せて。（朋子に）そ

朋子　それで、カフェーの名前は？

大牟田　新世界。浅草六区の北側ですって。

大牟田　わかりました。

大牟田が去る。

朋子　大丈夫かしら。あんなに熱くなっちゃって。

潔　それほど美汐が好きなんだろう。それより、朋子。最近、美汐に手紙か電話

はなかったか？

朋子　さあ。でも、どうして？

潔　いや、大牟田君が言っていた誘拐って話。まんざら、ありえない話でもない

潔　と思つてね。（と腕時計を見て）まずい。パーティーが始まる。

潔・朋子が去る。

浅草のカフェー新世界。藤子がやってくる。

藤子  
筑紫野

お水のお代わりはいかがですか？

あ、お願いします。(明智に) しかし、あなたのお話には驚きました。もしそれが本当なら、伊知郎様は今すぐ日本に帰ってくるべきです。潔様に代わって、亡くなったお父上の跡を継ぐべきです。

藤子

何々？ 春日財閥の当主が、また代わるんですか？

ラヂオ

美汐には兄貴がいたんだ。震災の前に事故を起こして、同僚を死なせちゃまって。それで、親父に勘当されたんだとさ。

筑紫野

ラヂオさん、これは春日家の内部の問題です。よその人に、軽々しく話さないでください。

藤子

あら、ラヂオはよその人じゃないんですか？

美汐  
ラヂオ

ラヂオ君は、私たちを助けてくれた、恩人です。  
(藤子に) だってさ。ほらほら、あんたは店の前でも掃除してこいよ。

そこへ、つるよがやってくる。

つるよ

あれ？ ラヂオの音が聞こえないね。

藤子  
ラヂオ

ラヂオ、修理。

直してやってもいいけど、どうせまたすぐに壊れるぜ。ラヂオってのは精密機械なんだ。こんな所に置いとく方が間違ってる。

藤子

仕方ないだろう？　うちの店は、私とラヂオが売り物なんだから。

筑紫野

藤子さんとはともかく、ラヂオが売り物になりませんか？　私もたまに聞きますけど、近頃はニュースしかやらないでしょう。だから、つまらなくて。

藤子

歌舞音曲は自粛中なんですよ。天皇陛下のお体がお悪いから。

筑紫野

なるほど。それは致し方ありませんな。

美汐

私はニュースもおもしろいと思う。だって、ここにいるだけで、世界中の出来事がわかるんだもの。私はラヂオが好き。ラヂオが聞きたくて、ここに来る人の気持ち、よくわかる。ラヂオ君、ラヂオを直してあげて。

ラヂオ

（明智に）それで、兄は日本に帰ってくるんですか？

そこへ、大牟田がやってくる。

大牟田

美汐さん、お迎えに来ましたよ。

美汐

大牟田さん！（筑紫野に）あなたが呼んだの？

大牟田

とんでもない。私はずっとお嬢様のおそばにいましたでしょう？

美汐

（美汐に）先輩が心配してましたよ。お体の具合はどうですか？

大牟田

見ればわかるでしょう？　私は元気です。迎えに来ていただく必要などありません。

大牟田

しかし、ここから本郷まではかなりの道のりだ。僕のクライスラーでお送り



筑紫野  
しますよ。  
お嬢様、帰りましょう。ライスカレーも食べたし、伊知郎様の話も聞いたし、

美汐  
もう十分ではありませんか。  
私のもつと話が聞きたい。いいでしょう、明智さん？

大牟田  
（明智に）美汐さんを連れ出したのは、君か？  
ええ。私立探偵の明智小五郎です。

明智  
冗談はよしたまえ。明智小五郎は、探偵小説の主人公の名前だ。  
よくご存じですね。ひよつとして、あなたも江戸川乱歩のファンですか？

大牟田  
二三編読んだだけだ。僕は武者小路実篤先生の作品を愛読している。  
あなたとは仲良くなれそうもない。で、美汐さんとはどういう関係です。

明智  
この人は、叔父様の大学時代の後輩です。  
つまり、君とは無関係ということか。

大牟田  
今はそうかもしれない。が、一年後には、僕らは夫婦になっているはずだ。  
そんなことはありません。が、一年後には、僕らは夫婦になっているはずだ。

美汐  
さあ、美汐さん、僕と帰りましょう（と美汐の腕をつかむ）  
おいおい、乱暴はやめろよ。（と大牟田の肩をつかむ）  
邪魔するな！

ラヂオ  
大牟田がラヂオの手を振り払う。ラヂオが転がる。大牟田が美汐の腕をつかむ。明智が

大牟田  
大牟田の手を振り払う。大牟田が明智に殴りかかる。明智がかわす。大牟田がさらに殴

りかかる。明智がかわす。大牟田が勢い余って、転ぶ。

藤子  
ちよつと！ 店の中で暴れないでよ！

大牟田

明智

大牟田

（明智に）貴様の目的は何だ。美汐さんを誘拐するつもりか？  
僕はここで話をしていたただけだ。美汐さんを連れ去ろうとしているのは、君の方だろう。

大牟田が明智に殴りかかる。明智がかわして、大牟田の背中を押す。大牟田がよろめいて、ラヂオ（機械）に衝突する。

ラヂオ  
大牟田

あ！ 何するんだ、バカ野郎！（と大牟田を叩く）  
僕の頭を叩いたな？

大牟田がラヂオに殴りかかる。ラヂオがかわす。大牟田がさらに殴りかかる。ラヂオはかわすが、バランスを崩して、跪く。大牟田がラヂオの腕をつかむ。明智と美汐が走り去る。大牟田が気づいて、走り出す。と、筑紫野が大牟田の腕をつかむ。

筑紫野  
大牟田

大牟田様、ここは出直してください。お嬢様は私が必ず連れ戻しますから。  
あいつは誘拐犯だ。おまえなんかかなう相手じゃない。

大牟田が筑紫野を突き飛ばす。筑紫野が倒れる。大牟田が走り出す。と、目の前につるよが立ち塞がる。

つるよ  
大牟田

待ちなよ！（と大牟田に手を出して）約束の物をいただこうか。  
何の話だ。

つるよ 礼金だよ。春日家の奥様から聞いてないのかい？  
ラヂオ つるよさん、あんたが電話したのか？  
つるよ お家の方々が心配してると思ってたね。私は人助けのためにやったのさ。  
藤子 でも、無料奉仕はしないんですよね。さすがです。  
つるよ 藤子ちゃんは黙ってて。(大牟田に) ほら、さっさと払いなつてば。  
大牟田 クソー。(とポケットを探つて) ん？ 財布がない！  
藤子 ラヂオ、あんた、やったね？

ラヂオが走り去る。大牟田が後を追う。藤子が筑紫野に歩み寄る。

藤子 女将さん、この人、気を失ってます。

つるよ ここで寝られちゃ、商売の邪魔だ。奥に運んどきな。

藤子 私一人じゃ運べませんよ。

つるよ わかった。私も手伝うよ。(と筑紫野を抱えて) 重い！  
藤子 後で礼金をもらいましょうね。たんまりと。

藤子・つるよが筑紫野を引きずつて、去る。  
路上。美汐・明智が走ってくる。

美汐 明智さん、どこへ行くんですか？  
明智 僕の家さ。伊知郎の話、もっと聞きたいんだらう？  
美汐 ええ。でも、筑紫野が……。

そこへ、ラヂオが走ってくる。

ラヂオ

美汐、どこへ行くんだ。

美汐

ラヂオ君、筑紫野は？

ラヂオ

さあな。最後に見た時は、新世界の床で寝てたけど。

美汐

じゃ、筑紫野が起きたら、伝えて。私、明智さんのお屋敷へ行くって。

明智

屋敷じゃない。アパートメントだ。

美汐

アパートメントって、近頃、あちこちにできている、同潤会の？ 私、一度

ラヂオ

でいいから、見てみたかったの。

美汐

ラヂオはもういいのか？  
続きはアパートメントで聞くわ。じゃあね、ラヂオ君。

明智・美汐が去る。

ラヂオ

何がアパートメントだ。あんなの、要するに、西洋長屋じゃねえか。

そこへ、金之助がやってくる。ラヂオが走り出そうとすると、林太が立ち塞がる。

ラヂオ

おまえら、俺を追いかけてきたのか？

金之助

財布を返してもらってなかったからな。

ラヂオ

あれ？ もう一人はどうした？ 一番ちっこいの。

林太

夏か？ あいつは別の仕事だ。

金之助

バカ、こんなやつに教えてやる必要はねえ。(ラヂオに) つべこべ言ってね

えで、財布を出せ。

残念だったな。あの財布は持ち主に返しちまった。

だったら、ついさつき手に入れたやつでいい。

おまえら、覗き見してたのか？（林太に）どうだった、俺の腕前は。

素人にしてはなかなかだったな。

バカ、褒める必要もねえ。（ラヂオに）確かに、筋は悪くねえ。しかし、ス

リにはスリの仁義つてもんがあるんだ。そいつを弁えねえやつは、痛い目に

合わせるしかねえ。

ほらよ。（と財布を金之助に投げて）これで貸し借りはなしだ。あばよ。

（と歩き出す）

（財布の中を見て）空っぽだ。待て！

金之助

ラヂオ

ラヂオが走り出す。そこへいねがやってきて、ラヂオと擦れ違う。ラヂオが立ち止まり、靴を脱いで、中を見る。

ラヂオ

まさか。

いね

（札束を示して）探し物はこれかい？

ラヂオ

どうやって盗った？

いね

そんなこともわからないのかい？ まだまだひよっ子だね。

ラヂオ

黙れ、ババア！

ラヂオがいねに飛びかかる。いねがかわし、ラヂオの足を引っかける。ラヂオが転ぶ。金之助・林太がラヂオを蹴る。何度も。

いね その辺にしときな。

金之助・林太が蹴るのをやめる。ラヂオは突っ伏している。

いね あんた、カマイタチのいねって知ってるかい？

ラヂオ (顔を上げて)カマイタチ？ カワウソの仲間か？

林太 バカ、カマイタチはイタチじゃねえ。妖怪の一種だ。

金之助 だから、教えるなって言っただろう。

ラヂオ (いねに)そのカマイタチがどうかしたのか。

いね いいかい、小僧。上野浅草界隈でスリがやりたかったら、まずはカマイタチ

ラヂオ のいねに仁義を通すんだ。わかったね？

いね そいつはどこにいるんだ。

金之助 あんたの目の前だよ。今日のところは大目に見てやる。でも、今度、勝手な

ラヂオ 真似をしたら、一生後悔することになるよ。(と歩き出す)

金之助 わかったな？ 小林ラヂオ。

いね・金之助・林太が去る。

ラヂオ 何がカマイタチだ。そんなやつがいるなんて、誰も教えてくれなかったぞ。

ラヂオが突っ伏す。そこへ、大牟田がやってくる。ラヂオを担いで、去る。

本郷の春日邸の居間。ラヂオがソファで寝ている。そこへ、朋子がやってくる。ラヂオの鼻を摘む。ラヂオが叫び声を上げて、飛び起きる。

5

ラヂオ

何しやがる！

朋子

今、何時だと思ってるの？ 朝の七時よ。さっさと顔を洗ってきなさい。

ラヂオ

誰だ、あんた。

朋子

洗面所は廊下を出て、突き当たりを右。広いから、迷子にならないようにね。

ラヂオ

俺は誰だと聞いているんだ！（と立ち上がるが、腹を押さえて、また座る）

朋子

（笑って）昨日は、大分痛い目に遭ったようね。でも、あなた、大牟田君のお財布を掏ったんでしょ？ きつと天罰が下ったのよ。

ラヂオ

あんた、あの大男の知り合いか？

朋子

あら、そういう呼び方は失礼よ。道に倒れていたあなたを、ここまで運んでくれたんだから。（奥に向かつて）筑紫野。

そこへ、筑紫野がやってくる。

朋子

潔さんを呼んできて。それから、お紅茶を一つ、お願い。

筑紫野

かしこまりました。

筑紫野が去る。

朋子 私は春日朋子。美汐の叔母よ。でも、叔母さんなんて呼ばないでね。まだ若いんだから。

ラヂオ 叔母さん、ここは美汐の家か？

朋子 美汐じゃなくて、私の家。

ラヂオ なぜ俺をここに連れてきた。俺に何の用だ。

朋子 あなたなら、知ってるんじゃないかと思ってるね。美汐の居場所を。

ラヂオ あいつ、昨夜は帰ってこなかったのか？

朋子 夜中の十二時に電話があつたわ。明智って名乗る男から。美汐は預かった。返してほしければ、金を用意しろって。ねえ、美汐はどこ？ 知っているなら、答えなさい。

ラヂオ 俺が知るわけねえだろう。

そこへ、潔・大牟田がやってくる。

大牟田 そんなはずはない。おまえは美汐さんを追いかけて、あの店から出ていった。

ラヂオ あの後、どこかで会ったはずだ。

大牟田 それを聞いてどうする。また連れ戻しに行くのか？

ラヂオ 美汐さんは、僕の妻になる人だ。僕には彼女を守る責任がある。

大牟田 悪いが、俺は何も聞いてねえ。勝手に探してくれ。

大牟田 貴様、惚けると承知しないぞ！



潔 まあまあ、大きな声を出さないで。ラヂオ君、君に一つ、見せたい物があるんだ。

ラヂオ あんた、美汐の叔父さんか？

潔 ああ、自己紹介がまだだったね。僕は春日潔だ。よろしく。(と右手を差し出す)

ラヂオ で、俺に見せたい物って？

潔 これだ。(と写真を出して)昨日、明智と名乗ったのは、この男だったかい？ラヂオ (写真を見て)ああ、たぶん、そうだろう。

大牟田 (潔に)ほらね？ 僕の言った通りだったでしょう？

朋子 (潔に)筑紫野も間違いないって言ってたし、これで答えは出たようね。

ラヂオ 明智ってのは偽名なんだろう？ 本名はなんて言うんだ？

朋子 宗像修治。伊知郎君を殺した男よ。

大牟田 朋子さん、そこまで話していいんですか？

潔 構わないだろう。僕らにはラヂオ君の協力が必要なんだから。

ラヂオ (朋子に)今、なんて言った？ 伊知郎を殺した？

朋子 宗像は、伊知郎君がアメリカにいるって言ったそうね。それはとんでもない

ラヂオ デタラメ。伊知郎君は三年も前に亡くなってるの。

ラヂオ 一体どういふことだ。

潔 春日家の経営する会社の中に、春日重工というのがあってね。伊知郎と宗像

は、その研究所で新製品の開発をしていた。震災の半月ほど前だったかな。

実験中に爆発事故が発生して、研究所が全焼。焼け跡からは、伊知郎の遺体

が見えされた。

ラヂオ 宗像は？

潔

消えた。警察は、事故の責任は宗像にあつたのではないかと、行方を追つた。が、捕まらなかつた。どうやら、国外へ逃げたらしい。美汐は、自分の兄が亡くなったことに強い衝撃を受けていた。震災で記憶を失つたことは聞いているね？

ラヂオ

ああ。

潔

正直、僕は安心した。これ以上、美汐が苦しまなくて済むと。だから、美汐には伊知郎の話をしなかつた。君には兄弟はいない、一人っ子だと教えたんだ。

ラヂオ

宗像はなぜ日本に帰ってきたんだ？

朋子

決まってるでしょう？ お金よ。素性を隠して、逃げ回っていたら、働くわけにも行かないし。

ラヂオ

それで、美汐を誘拐したってわけか。

潔

春日家には多少の資産がある。金なら、いくら出しても、構わないんだ。しかし、それで美汐が無事に帰ってくる保証はない。美汐の身に何かあつたら、亡くなった兄に顔向けができない。

ラヂオ

そんなに心配だったら、警察に知らせればいいじゃねえか。

潔

宗像に言われたよ。警察に知らせたら、美汐の命はないと。ラヂオ君、頼む。

大牟田

僕らに力を貸してくれ。

そこへ、筑紫野がやってくる。手にはカップを載せたトレイ。

筑紫野

お待たせしました。(とカップをラヂオに渡そうとする)

朋子　　ラヂオ  
筑紫野　ラヂオ  
大牟田　ラヂオ  
ラヂオ  
大牟田　ラヂオ  
筑紫野　ラヂオ  
大牟田　ラヂオ  
ラヂオ  
大牟田　ラヂオ  
潔　　ラヂオ

あ、それは私の。(とカップを取る)  
高そうなカップだな。

ドイツのマイセン。ワンセットで五百円です。  
五百円？　嘘だろう？

カップの値段はどうでもいい。僕は美汐の話をしてるんだ。  
どこへ行くかは聞いてない。でも、大体の見当はつくぜ。なんだったら、これから探しに行つてやろうか？

本当か？

(ラヂオに) 怪しいな。なぜ最初にそう言わなかったんだ。  
決まってるだろう？　あんたたちが信用できなかったからさ。

何だと？  
大牟田様、落ち着いてください。(と大牟田の腕をつかむ)

(ラヂオに) 僕らに力を貸してくれるんだね？

そのかわり、礼金はいただくぜ。

貴様、美汐さんの命より、金が大事なのか？

(ラヂオに) いくらほしいの？

そうだな。(とカップを差しして) そいつがワンセット買えるぐらいかな。

ふざけるな！　少しは相場を考えろ！

大牟田様！(と大牟田の腕をつかむ)

(大牟田に) あんたの大事なお嬢様は、五百円より安いっていうのか？

大牟田君、あなたの負けよ。五百円なら、安い買い物じゃない。

(ラヂオに金を差し出して) とりあえず、手付けの五十円だ。無理はしなくていい。何かわかったら、すぐに知らせしてくれ。

ラヂオ (受け取って) 了解。

潔・朋子・大牟田・筑紫野が去る。  
日暮里の商家の裏口。コテツがやってくる。

コテツ 兄ちゃん!

ラヂオ 悪かったな、いきなり呼び出して。ババアにイヤミを言われなかったか?

コテツ 「もしラヂオが戻りたいって言っても、私は許さないからね」って。

ラヂオ バカ野郎。こんな家、二度と戻ってやるもんか。

コテツ どうしたの? 二日続けて、来るなんて。

ラヂオ おまえに渡したいものがあつてな。

コテツ もしかして、『月世界旅行』?

ラヂオ いけね。今度、来る時、持つてくるって約束したんだっけ。

コテツ いいよ、いいよ。いつか、お金ができた時で。

ラヂオ 金ならたつぷりあるんだよ。ほら、見ろ。(と金を見せる)

コテツ すげえ。全部で五十円もある。

ラヂオ 驚くのはまだ早い。実は今度、デカイ仕事をする事になつてな。そいつが

うまく行ったら、あと四百五十円入るんだ。この金と足したら?

コテツ ちようど五百円だ!

ラヂオ ご明算! だから、もう一年も待つことはねえ。あと三日。三日以内に、お

まえを迎え来る。

コテツ 本当だよね? 俺をからかっているんじゃないよね?

ラヂオ バカ。たまには、俺を信用しろ。(と金を差し出して) この金はおまえにや

る。『月世界旅行』でも何でも、好きな本を買え。  
でも、それを遣っちゃったら、お金が足りなくなるよ。

コテツ  
ラヂオ

そう言えば、そうだな。

コテツ

本は後でいいよ。今は番頭さんに借りたのがあるし。

ラヂオ

わかった。今度来る時は、きっちり五百円にして、持ってくるぜ。

コテツ

兄ちゃんは今、レストランで働いてるんだよね？ 今度の仕事もそこ？

ラヂオ

いや、違う。

コテツ

危ない仕事じゃないよね？ 兄ちゃん、死んだりしないよね？

ラヂオ

バカ、ただの人助けだ。余計な心配するな。

コテツ

必ず迎えに来てくれるよね？

ラヂオ

三日以内に、必ずだ。じゃあな。(と歩き出すが、すぐに立ち止まって) な

コテツ

あ、コテツ。『月世界旅行』って、どんな話なんだ？

ラヂオ

月の世界に旅行に行く話。

コテツ

それぐらいは題名だけでわかる。おまえ、月に行きたいのか？

ラヂオ

行きたいよ。俺、お月様が好きなんだ。お月様が出てると、夜、一人でも淋

ラヂオ

しくないし。行ってみたいなあ、月の世界。

コテツ

俺は東京だけで腹一杯だよ。(と歩き出す)

ラヂオ

兄ちゃん！

コテツ

何だよ。

ラヂオ

待ってるからね。

コテツ

俺、ずっと待ってるからね。

ラヂオ

わかってるよ。

コテツ

コテツが走り去る。

浅草のカフェー新世界。藤子・つるよがやってくる。

6

藤子　あれ？　今日は一人かい？  
ラヂオ　藤子さん、何でもいいから、飯を食わせてくれ。朝から何も食ってねえんだ。  
つるよ　銭は持つてるんだらうね？  
ラヂオ　はいはい。じゃ、先に昨日の給金をくれ。客を三人連れてきて、九銭。ラヂオを二回直して、六銭。合計して、十五銭だ。  
つるよ　十五銭じゃない、九銭だ。ラヂオは直ってないんだから。  
ラヂオ　わかった。九銭でいい。その九銭で、握り飯か何か、作ってくれ。  
つるよ　お握りはラヂオを直してからだよ。  
ラヂオ　食うのが先だ。  
つるよ　直すのが先だよ。  
ラヂオ　クソ。直せばいいんだらう？　直せば。（とラヂオの修理を始める）  
藤子　ご飯も食わずに、何をしてたんだい？　本職の方かい？  
ラヂオ　違う。昨日、ここに明智ってやつが来ただらう？　あいつの家を探してたんだ。  
藤子　あの人、どの辺に住んでるの？  
ラヂオ　それがわからねえんだ。あいつは同潤会のアパートメントだって言ってたの

つるよ  
に。

だったら、中之郷だろう？

藤子  
女将さん、同潤会のアパートメントは他にもあるんですよ。

ラヂオ  
知ってるよ、柳島だろう？ 両方とも調べたけど、明智の部屋は見つからな

藤子  
かった。

ラヂオ  
他ののは？

藤子  
え？ まだ他にもあるのか？

ラヂオ  
えーと、どこだったかな。あら、ラヂオが直ったみたい。

ラヂオ放送。  
別の場所に、田川がやってくる。

田川  
最近、東京市内のあちこちに、同潤会のアパートメントができていますね。

同潤会というのは、震災後の帝都復興を目的として、大正十三年に発足した  
団体であります。その主な活動は、鉄筋コンクリート造りのアパートメント  
の建設。大正十五年十二月現在で、三つのアパートメントが完成しておりま  
す。すなわち、中之郷、柳島、そして――

田川が去る。

藤子  
あら、また壊れた。

ラヂオ  
なんだよ、あとちよつとでわかったのに。

つるよ  
藤子ちゃん、最後の一つ、覚えてないの？

藤子  
思い出した、青山です。いや、清砂通りだったかな？

ラヂオ           どっちなんだよ。一つに決めてくれよ。

そこへ、明智がやってくる。

明智           こんにちは。

藤子           あら、明智さん！ うれしい！ また来てくれたの？

明智           いや、昨日、代金を払わずに帰ったから。

つるよ          そのためにわざわざ？

明智           いや、これから精養軒で人と会う約束がありましたね。そのついでですよ。

藤子           （と財布を出して）全部でいくらになりますか？

つるよ          お代はもう済んでますよ。昨日、筑紫野さんが払っていきましたから。

明智           なぜ正直に言うんだい。黙ってれば、わからないのに。

ラヂオ          女将さん、金儲けばっかり考えてると、いつかは手が後ろに回りますよ。

明智           こら、明智！

ラヂオ          何だ、小林少年。

明智           美汐は今、どこにいる。

藤子           俺の家だけど、それがどうかしたか。

明智           まさか、昨夜はあのお嬢様と、二人っきり？ いやだ、妬けちやう！

藤子           おかしいな。想像はしないでください。ちゃんと別々の布団で寝ましたよ。

ラヂオ          そんな嘘、誰が信じると思う？

明智           嘘じゃねえよ。明智が美汐に手を出すわけがねえ。なんたって、大事な人質だからな。

明智           人質？ 一体何の話だ。



ラヂオ

明智

隠しても無駄だ。話は美汐の叔父さんから聞いた。春日潔か。一応、忠告しておくが、あいつの言うことは真に受けない方がいい。どうしようもない嘘つきだから。

ラヂオ

明智

たとえば。

ラヂオ

あんたの本名は宗像修治。三年前に伊知郎を殺した、殺人犯だ。

藤子

殺人犯？ この人が？

明智

ラヂオ、おまえは何もわかってない。怪我をしたくなかったら、俺たちには関わるな。

明智が歩き出す。ラヂオが明智にぶつかる。

明智

おい、返せ。

ラヂオ

返してほしかったら、俺の質問に答えろ。あんたの家はどこにある。

明智がラヂオの腕をつかみ、捻り上げる。

明智

スリの分際で、偉そうな口を叩くな。

つるよ

ラヂオ、諦めな。あんたに勝てるわけないよ。

ラヂオ

クソー。(と財布を差し出す)

明智

(受け取って)俺と美汐のことは忘れろ。わかったな？

明智が去る。

ラヂオ 人殺しの分際で、偉そうな口を叩くな。(とマッチを出す)

藤子 そのマッチは？ 財布と一緒に掏ったの？

ラヂオ (マッチを見て) カフェー百軒店。

つるよ 百軒店？ 近頃、渋谷に出来た商店街だね。

藤子 (ラヂオに) 渋谷の手前は青山。あの人の家は青山だよ。

ラヂオ 遠いなあ。仕方ねえ。奮発して、市電に乗るか。(と走り出す)

つるよ ラヂオ！ 修理は？

ラヂオがラヂオを叩いて、走り去る。

つるよ 叩いただけで、直るもんか。

藤子 (スピーカーに耳を当てて) 女将さん、直ってます。

ラヂオ放送。別の場所に、田川がやってくる。

田川 東京市民の足と言えば、東京市電。大正十五年現在、一日の乗客数は百万人

を突破すると言われております。確かに、市電は便利ですね。一枚七銭の乗換切符を買えば、どこまでも行けます。たとえば、浅草から青山まで行く場合。まずは雷門で蔵前方面へ行く電車に乗る。次に浅草橋で万世橋方面へ行く電車に乗り換える。さらに三宅坂で赤坂方面へ行く電車に乗り換える。そして明治神宮で降りると、そこは表参道。

藤子・つるよ・田川が去る。  
青山のアパートの前。ラヂオがやってくる。後を追って、夏がやってくる。

夏 待ちなよ。

ラヂオ あれ？　なんでおまえがここにいるんだ？

夏 そう言うあんたこそ、このアパートメントに何の用？

ラヂオ 仕事だよ。大金持ちの旦那様に、人探しを頼まれてな。

夏 まさか、昨日のお嬢様じゃないよね？

ラヂオ いや、そのまさかだ。俺の推理によれば、美汐はこのアパートメントにいる。

夏 明智って野郎の部屋にな。

ラヂオ お嬢様を見つけて、連れ戻せって言われたのかい？

夏 まあな。で、おまえの方は？　おまえの狙いも美汐か？

ラヂオ バカ。商売敵に教えるわけないだろう。

夏 とは比較にならねえほどの大罪だ。見過ごすわけには行かねえ。おまえが何をしようとしているか知らねえが、美汐は連れて帰るぜ。

ラヂオ そいつは無理だよ。お嬢様は部屋から出られない。

夏 なんだ。

ラヂオ 部屋には鍵がかかっている。二時間ぐらい前に、部屋の主が出かけてね。その

夏 時、かけていったんだ。

ラヂオ 鍵は中から開けられるだろう。

夏 さつき、試しに行ってみた。扉を叩いて、「郵便です」って。でも、うんと

ラヂオ すんとも言わなかった。たぶん、薬で眠らされたか、縛られて押し入れに放

ラヂオ　　り込まれたんだよ。  
クソー。明智の部屋はどこだ。

夏　　教えてほしいかい？

ラヂオ　　ああ。

夏　　いいかい、ラヂオ。私らの狙いは身代金だ。あんたがお嬢さんを助け出した

ら、計画がパーになる。教えてなんか、やるもんか。

ラヂオ　　（アパートを見て）あっ！　美汐！

夏　　え？（とアパートを見る）

ラヂオ　　何が部屋から出られないだ。一人で逃げ出したじゃねえか。

夏　　どこだよ、お嬢さんは。

ラヂオ　　（指差して）ほら、二階の一番右だ。あ、見えなくなった。

夏　　おかしいね。明智の部屋は三階の一番左だよ。

ラヂオ　　出口を探して、走り回ってるんだろう。とにかく、急いで後を追わないと。

夏　　おっと、あんたはここまでだ。お嬢様は、私が追う。ついてきたら、また昨日みたい、ボコボコにするからね。

夏が走り去る。

ラヂオ　　三階の一番左か。夏、ありがとさん。

青山のアパートの明智の部屋の前。

ラヂオ

(表札を読んで)「明智小五郎」。驚いたな。本当に明智って名前まで借りてやがる。江戸川乱歩に見つかつたら、どうするつもりだ。(と扉をノックして)美汐！ 俺だ！ ラヂオだ！ (と耳をすまして) 反応なしか。だつたら、次の手だ。

ラヂオがポケットから針金を出し、鍵穴に差し込む。と、扉が開いて、ラヂオの頭に当たつた。中から、美汐が出てくる。

美汐

ラヂオ君！ ここで何してるの？

ラヂオ

必死で痛みを堪えてる。

美汐

今、凄いな音がしたものね。これからは、扉から離れた所に立つた方がいいわ。おまえなあ、「ごめん、痛かった？」ぐらい言えねえのか？ あれ？ おまえ、縄は？

美汐  
ラヂオ

縄って？  
そうか、自力で解いたんだな？ 全く逞しいお嬢様だぜ。よし、今のうちに、外へ出る。

美汐  
ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

それは駄目。明智さんが帰ってくるまで、ここにいなきやいけないの。逃げたら殺すって脅されたのか？

脅されてなんかいません。(と周囲を見回して) 人に見られたら、まずいわ。とりあえず、中に入って。(とラヂオを部屋の中に引っ張り込む)

：：お邪魔します。

外は寒かったでしょう？ 珈琲でも淹れてあげようか？

何、暢気なこと言ってるんだ。おまえ、自分の立場がわかってるのか？

立場って？

おまえは明智に誘拐されたんだよ。

あら、よく知ってるわね。

だったら、珈琲なんか淹れてる場合じゃねえだろう。(と美汐の腕をつかんで) さあ、行くぞ。

(ラヂオの手を振り払って) 私の珈琲は飲めないって言うの？

そうは言わねえけど。

だったら、飲んでよ。私ね、昨夜、明智さんに、珈琲の淹れ方を習ったの。

誰かに淹れてあげたくて、ウズウズしてたのよ。

わかった、わかった。屋敷に帰ったら、好きなだけで淹れさせてやる。

だから、私は帰るわけには行かないの。明智さんの計画がうまく行くまで。どういうことだ。おまえ、明智に協力してるのか？

そうよ。明智さんは今、上野の精養軒へ行ってるの。叔父様と取引するため

に。

おまえを無事に返すかわりに、金を寄越せっていうんだろう？

全然違う。明智さんがほしいのは、お金なんかじゃない。

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

おまえはあいつに騙されてるんだよ。あいつの名前は明智小五郎じゃねえ。本名は宗像修治。三年前に人を殺して、外国に逃げた男なんだ。

嘘よ。明智さんがそんなことするわけない。

なぜそう言い切れるんだ。おまえは明智のことを何も知らねえだろう？

それはそうだけど。じゃ、明智さんは誰を殺したの？ 別れた恋人？

それは、おまえには関係ねえ。

言えないの？ やっぱり、嘘なのね？

そうじゃねえ。この話は、おまえの叔父さんから聞いたんだ。

私は明智さんを信じる。だって、あの人はお兄様の親友なんだもの。私を騙すはずない。

でも、所詮は赤の他人だ。俺だったら、血のつながってる方を信じるぜ。

叔父様はお兄様のことを隠してたのよ。そんな人がなぜ信じられるの？

だったら、明智はどうなんだ。おまえに、偽名を使ったじゃねえか。

それはそうかもしれないけど、あの人は私に大切な物をくれた。

大切な物って？

思い出。私はね、子供の頃、海が好きだったの。夏になると、お兄様と二人

で江ノ島に行って、日が暮れるまで泳いだの。それから、クリスマスも好き

だった。乾杯をして、ケーキを食べて、最後に賛美歌を歌ったの。お兄様と

二人で。

おまえ、記憶が戻ったのか？

いいえ。今のはみんな、明智さんから聞いた話。私は一つも覚えてなかった

けど、聞いてるうちに涙が出てきた。私は幸せだったの。確かに、震災です

べてを失ったかもしれない。でも、それまではいつもそばにお兄様がいた。

ラヂオ  
美汐

私は一人じゃなかったのよ。  
今だって、一人じゃねえだろう。叔父さんも叔母さんもいるし。  
叔父様には感謝してるわ。身寄りのない私を引き取ってくれたんだから。でも、外へは一步も出してくれなかった。体が良くなるまで、我慢しなさいって。おかげで、私の友達はラヂオだけ。ラヂオを聞くことだけが楽しみだった。

ラヂオ

だから、昨日はあんなにはしゃいでたのか。

美汐

そうよ。だって、見るもの聞くもの、すべてが初めてだったんだもの。

ラヂオ

よし、俺と一緒に来い。

美汐

わからない人ね。私は明智さんを待ってなきやいけないの。

ラヂオ

また戻ってくればいいだろう？ ほんの一時間だけ、散歩だ。(と美汐の手をつかんで) いいから、来いって。

ラヂオが美汐の手を引っ張って、外へ飛び出す。  
愛宕山のラヂオ局の前。

美汐

(周囲を見回して) ここは？

ラヂオ

おまえ、鉄道唱歌は歌えるか？

美汐

前にラヂオで聞いたことがある。(歌う)「汽笛一聲新橋を」。

二人

「はや我汽車は離れたり、愛宕の山に入りのこる、月を旅路の友として」

ラヂオ

下手クソ。

美汐

自分はどうなのよ。

ラヂオ

いや、歌のうまい下手はどうでもいいんだ。歌詞の中に出てくる愛宕山。そ



美汐  
それがここなんだよ。  
そうなの？ 山にしては、あんまり高くないけど。

ラヂオ  
見ろよ。(と前方を指差す)

美汐  
(見て) あれは何？

ラヂオ  
J O A K。東京放送局の鉄塔だ。おまえがいつも聞いているラヂオの電波は、

美汐  
あそこから飛んでくるんだ。

ラヂオ  
あの鉄塔から？

美汐  
どうだ？ ついてきて、良かったらろう？

ラヂオ  
ええ。ありがとう、ラヂオ君。

美汐  
礼はいらねえ。その代わり、叔父さんの屋敷に帰るんだ。

ラヂオ  
明智さんの部屋に戻るって約束したはずよ。

美汐  
悪いが、その約束は守れねえ。いいか、美汐。明智が金を手に入れたら、お

ラヂオ  
まえは邪魔になる。下手をしたら、おまえを殺そうとするかもしれねえ。

美汐  
そんなこと、するわけない。あの人は優しい人よ。

ラヂオ  
わからねえヤツだな。優しい人が親友を殺すか？

美汐  
親友って、誰よ。

ラヂオ  
いや、今のは、その……。

美汐  
教えて、ラヂオ君。親友って、誰？

ラヂオ  
美汐、落ち着いて、聞いてくれ。おまえの兄貴は、もうこの世にはいねえん

美汐  
だ。震災の前に、明智に――

美汐  
嘘よ……。嘘よ！

そこへ、潔・大牟田がやってくる。

美 潔  
美 潔

美 潔、散歩はおしまいだ。  
叔父様！なぜここに？ 精養軒には行かなかったんですか？  
僕は、宗像の言いなりにはならない。ラヂオ君、ご苦労だった。やっぱり、君に頼んで、正解だったよ。

美 潔

（ラヂオに）あなたが叔父様をここに呼んだの？

ラヂオ

違う。（潔に）朝からずっとつけてたのか？

大 牟 田

あっちこっち走り回りやがって。今日一日で、一貫は痩せたぞ。

潔

（ラヂオに）本当はもっと早く声をかけたかったんだけどね。下手に騒がれたら、人目につくし。でも、愛宕山なら、その心配もない。いい場所を選ん

でくれたよ。

ラヂオ

俺を騙したのか？

潔

騙してなんかいない。約束通り、謝礼は払うよ。ほら、残りの四百五十円だ。（とラヂオに封筒を差し出す）

美 潔

（ラヂオに）あなた、お金のために私を連れ戻そうとしたの？

大 牟 田

決まってるじゃないですか。こいつは浮浪児ですよ。震災で親を亡くして、

美 潔

上野の山で暮らしてるんだ。金のためなら、何だってする。昨日なんか、僕

ラヂオ

の――

潔

うるせえ！

大 牟 田

（大牟田に）その話はいいじゃないか。こうして美汐を連れ戻してくれたんだし。

美 潔

そうですね。美汐さん、帰りましょう。（と美汐の腕をつかむ）

大 牟 田

（大牟田の手を振り払って）嫌よ！ 私は帰らない！

美 潔

（大牟田の手を振り払って）嫌よ！ 私は帰らない！

大牟田

わがままを言うのはやめてください。さあ、美汐さん。（と美汐を腕をつかむ）

美汐

嫌よ！ 放して！

ラヂオが大牟田に飛びかかる。大牟田がラヂオの手を振り払い、殴りかかる。ラヂオが避ける。大牟田がラヂオの体をつかむ。

潔

やめたまえ、大牟田君。

大牟田

しかし、先輩——

潔

ラヂオ君、なぜ今頃になって、僕らの邪魔をするんだ。

ラヂオ

俺はただ、美汐を助けたくて……。

美汐はもう助かったんだよ。君の仕事はもう終わったんだ。今のはなかったことにしよう。受け取りたまえ。（と封筒をラヂオに押しつけて）美汐、帰ろう。

美汐がラヂオを見つめる。潔が美汐を促す。美汐・潔・大牟田が去る。  
浅草のカフェー新世界。藤子・つるよがやってくる。

藤子

どうだった？ 明智さんの家は見つかったかい？

つるよ

（ラヂオに）どうしたんだよ、怖い顔をして。

ラヂオ

何でもねえ。

つるよ

あら、いやだ。あんた、泣いてるのかい？

ラヂオ

泣いてねえ。いいから、俺のことはほっといてくれ！

そこへ、金之助・夏・林太がやってくる。

藤子 いらっしやいませ。

金之助 俺たちは客じやねえ。(ラヂオに近寄って) 来い。  
ラヂオ また、おまえらか。目障りだ。とっと失せろ！

林太がラヂオの肩をつかむ。ラヂオが立ち上がり、林太に殴りかかる。林太が避ける。  
金之助がラヂオを殴る。ラヂオが倒れる。林太がラヂオを蹴る。何度も。

藤子 やめなよ！ 死んじまうよ！

金之助 林太！

林太が蹴るのをやめる。金之助・夏がラヂオの体を起こす。林太がラヂオを背負う。

金之助 邪魔したな。

金之助・夏、そしてラヂオを背負った林太が去る。

藤子 何者なんでしょうね、あの子たち。

つるよ いつかはこうなると思ってたよ。ありや、いねさんの所の若い衆だ。

藤子 いねさんて？

つるよ 知らないのかい？ カマイタチのいねだよ。あの人に睨まれたら、無事じゃ

すまない。ラヂオのヤツ、可哀相に。

藤子・つるよが去る。

浅草の古着屋の倉庫。金之助・夏、そしてラヂオを背負った林太がやってくる。林太がラヂオを椅子の上に下ろす。そこへ、いねがやってくる。

金之助

(ラヂオの頬を叩いて) 起きろ。

ラヂオ

(目を開けて) ここは？

いね

久留米古着店。私がやってる店だよ。

ラヂオ

古着屋に用はねえ。服なんざ、これ一枚あれば十分だ。

いね

この店は世を忍ぶ仮の姿。スリがスリって看板を出すわけには行かないからね。

ラヂオ

あんたの講釈に付き合ってる暇はねえ。俺は忙しいんだ。(と立ち上がる)

林太

誰が帰っていいと言った！(とラヂオを突き飛ばし、椅子に座らせる)

いね

(ラヂオに) 昨日、あんたに言ったよね？ 今度、勝手な真似をしたら、一生後悔することになるって。

ラヂオ

覚えてねえな。

林太

しらばつくれるな、バカ野郎！

いね

林太、おまえは口出しするんじゃないよ。(ラヂオに) あんたは私の忠告を無視した。おかげで、身代金の横取りはパーだよ。さて、この落とし前はど  
う付けてくれる？

ラヂオ  
いね

落とし前？

いいかい、小僧。人が集まりや、社会ができる。社会ができれば、決まりが必要になる。私たちスリだって同じさ。スリにはスリの決まりつてもんがある。知りませんでしたなんて言い訳は通用しないんだよ。

ラヂオ  
いね

俺はただ、あのお嬢様が可哀相だと思っただけで。

(笑って) 可哀相だつて？　じゃ、この金は何だい？ (とラヂオのポケットから封筒を取り出す)

ラヂオ  
いね

返せ！　それは俺の金だ！

そうだろうとも。あんたはこの金でお嬢様を売った。私らと同じ穴の貉じゃないか。それとも、お姫様を救い出す、白馬の騎士にでもなったつもりかい？ (三人に) おまえたち。

金之助・林太がラヂオを押さえつける。夏が出刃包丁を持ってきて、いねに渡す。

いね  
ラヂオ  
いね

悪い子にはお仕置きだ。二度とスリができなくしてやるよ。  
やめろ。

残念だよ、小僧。あんたはなかなか筋が良かった。みっちり修業すれば、東京一のスリになれたかもしれないのに。

やめてくれ！ (と暴れる)

暴れるな。じつとしてれば、すぐに終わる。

頼むから、やめてくれ！　スリができなくなったら、俺は生きていけねえ。

ラヂオ  
夏

コテツを迎えにも行けねえ。  
誰よ、コテツって。

ラヂオ

夏

ラヂオ

弟だ。俺とコテツは、震災で親を亡くして、日暮里の親戚の家に引き取られたんだ。とところが、そのババアが鬼みてえな女で、俺たちを牛や馬みたいに扱き使いやがって。もちろん、辛抱したさ。でも、二年が限界だった。それで、弟を置いて、逃げ出したの？

いね

ラヂオ

いね

俺にはコテツを食わせられねえ。おまけに、親の借金も残ってたし。五百円だ。五百円貯めて、コテツを迎えに行く。俺はそのためにスリをしてるんだ。俺が迎えに行かなかつたら、コテツは一生、あそこで扱き使われるんだ。そんな話をして、私が同情するとも思ったのかい？

いねが出刃包丁を振りかぶる。ラヂオが悲鳴をあげる。そこへ、明智が飛び出す。

明智

いね

金之助

明智

いね

待てよ。その指、俺が買い取ろう。誰だい、あんた。母ちゃん、こいつが明智だよ。春日の娘を誘拐した。僕は誘拐なんかしてない。あれは、春日潔を騙すための狂言だ。まあ、そいつのおかげで失敗したがね。(とラヂオを指差す)

(金之助に) おまえたち、つけられたね？



明智

彼らのことは責めないでくれ。僕はどうしてもあんたに会いたかったんだ。で、その指だけだ。

いね  
明智

こんな小汚い指にいくら出すって言うんだい。千円。それから、あんたたちのスリの腕も買いたい。そっちも一人頭千円でどうぞだ。

金之助

てことは、全部で四千円か。

林太

五千円だよ。どうせ、自分を勘定しなかったんだらう？

夏

母ちゃん、悪い話じゃないんじゃない？

いね

ああ。(明智に)でも、あんたがそんな大金を持つてるようには見えないね。

明智

確かに、今は持っていない。

いね

だったから、取引は終了だ。(と出刃包丁を振り上げる)

明智

いいのか？ みすみす儲け話をフイにして。この仕事がうまく行ったら、俺

は春日財閥の全財産を手に入れる。あんたたちの働き次第で、多少の色はつけてもいいんだぜ。

いね

とりあえず、話を聞こうじゃないか。

明智

引き受けてくれるのか？

いね

それは聞いてからだだよ。ただし、いくら金を積まれても、殺しはお断りだ。

明智

スリにスリ以外の仕事を頼むもんか。ぜひと、あんたたちに拘ってほしい

金之助

ものがあるんだ。

明智

それは何だ。  
設計図だ。

いね・明智・金之助・夏・林太・ラヂオが去る。

本郷の春日邸の居間。潔・美汐・大牟田がやってくる。反対側から、筑紫野がやってくる。

筑紫野　お嬢様！　ご無事でしたか！  
潔　紅茶を三つ、持ってきてくれ。  
筑紫野　かしこまりました。

筑紫野が去る。

美汐　叔父様、私は部屋に戻ります。  
潔　気分でも悪いのか？　それなら、医者と呼ぶけど。  
美汐　その必要はありません。失礼します。（と歩き出す）  
美汐　美汐、君に隠し事をしていたことは謝る。確かに、君には伊知郎という名前の兄がいた。しかし、震災の前に亡くなったんだ。  
美汐　いいえ、兄は生きています。  
美汐　僕の言うことより、宗像の言うことを信じるのか？  
美汐　あの人は私にすべてを話してくれました。三年前の事故のことも。叔父様が今、しようとしていることも。  
美汐　先輩がしようとしていること？  
美汐　叔父様は、兄が作った物を、勝手に売ろうとしているんです。  
美汐　あれはうちの会社の物だ。誰に売ろうと、文句を言われる筋合いはない。  
大牟田　ちよっと待ってください。先輩は一体何を売ろうとしているんです。

そこへ、朋子がやってくる。

朋子 設計図よ。伊知郎君が開発していた新製品の。

大牟田 新製品って、車ですか？ 船ですか？

大牟田 朋子、その話はまた今度にしよう。

大牟田 いや、今、ここで話してください。僕は先輩が悪事を働くような人だとは思

大牟田 わない。しかし、美汐さんの疑いは晴らしておいた方がいい。

朋子 伊知郎君はね、宗像君と二人で、飛行機を開発をしていたの。飛行機をもつ

大牟田 と速く飛ばすためにはどうしたらいいか。その結論が全く新しいエンジンの

大牟田 開発だった。そのエンジンはね、プロペラじゃなくて、炎を噴射して飛ぶの。

大牟田 伊知郎君は、ジェット・エンジンって呼んでいた。

大牟田 ジェット？

大牟田 日本語に訳したら、噴射、噴出っていう意味よ。

大牟田 そこへ、筑紫野がやってくる。手には、カップを三つ載せたトレイ。

筑紫野 お待たせしました。

大牟田 ああ、ありがとうございます。

大牟田 大牟田がカップを二つ取り、一つを美汐に渡す。残りの一つを潔が取る。

朋子 いたadakわ。(と潔の手からカップを取る)

大牟田 あ、それは……。

朋子 美汐 朋子 美汐 大牟田 潔美汐 潔美汐 朋子 美汐 朋子

（美汐に）で、そのジェット・エンジンだけどね。あと一步で完成っていうところで、実験が失敗したの。エンジンが爆発して、伊知郎君は亡くなった。嘘です。

嘘じゃない。遺体は、僕と朋子が確認した。真っ黒に焼け焦げていたが、伊知郎に間違いなかった。信じられないなら、その時の新聞を見たまえ。図書館に行けば、保管してあるはずだ。

（大牟田に）伊知郎君の死を誰よりも悲しんだのは、お父さんの勲さんよ。社長命令で、直ちにジェット・エンジンの開発を中止させた。後には、設計図だけが残った。勲さんはそれも焼却しろって言ったけど、潔さんは密かに保管することにした。だって、ジェット・エンジンは飛行機の歴史を変える、画期的な発明よ。焼却なんて、できるわけない。

（潔に）それほど貴重な物を、なぜ売ることにしたんです。

うちの会社は、航空機の開発から撤退した。作りたくても、作れないんだよ。叔父様にはわかってるんですか？ 設計図を売ったら、どうなるか。

日本の航空機はヨーロッパを抜いて、世界一になるだろう。亡くなった伊知郎も、きつと喜んでくれるはずだ。

いいえ、兄は反対しているそうです。何としてでも、設計図を取り返してくれ。そう、明智さんに頼んだそうです。

明智じゃなくて、宗像よ。あの人は自分の手でジェット・エンジンが作りたいの。だから、あなたを利用して、設計図を手に入れようとしたの。

明智さんはそんな人じゃありません。

なぜそこまで信用できるのかしら。宗像君は、あなたのお兄さんを殺した男なのよ。

潔 朋子

大牟田

潔 大牟田

大牟田

潔

潔・朋子・大牟田が去る。

筑紫野

美汐

筑紫野

美汐

筑紫野

美汐

筑紫野

美汐

筑紫野

美汐

筑紫野

美汐は純粹なんだ。人を疑うことを知らないんだよ。

（美汐に）だったら仕方ないけど、あなたには大牟田君て人がいるのよ。人殺しなんかにおかしな気持ち持たないことね。

美汐さん、明日、僕のクライスラーでドライブに行きませんか？ 海を見にいや、美汐は二日も外出して、疲れている。（美汐に）当分の間は、自分の部屋で安静にしているんだ。これは命令だ。

（美汐に）じゃ、ドライブは年が明けてからということにしましょう。先輩、僕はこれで失礼します。

そこまで送ろう。

お嬢様、ご無事で何よりでした。

筑紫野、お願いがあるの。駄目です。今度という今度は、絶対に駄目です。

そう言わずに、お願い。私はどうしても明智さんに会いたいの。これ以上、潔様にご心配をおかけしてはいけません。どうしても行くと呼ぶなら、体を張って、止めさせていただきます。

あなたは、叔父様が言ったことを信じたの？

潔様のお話には筋が通っています。疑う理由はありません。

それじゃ、あなたもお兄様は亡くなっちゃった？ 宗像さんはお嬢様を利用したかった。そのために、伊知郎様は生きています。言っただけです。

美汐

だったら、なぜ叔父様は私をこの屋敷に閉じこめておくの？ 震災から今日

筑紫野

まで、私は一歩も外へ出してもらえなかった。それは、お兄様に会わせたく

美汐

なかったからじゃないの？

筑紫野

それは、お嬢様の身の安全を慮って――

お嬢様！

わかった。筑紫野のバカ！

美汐が去る。筑紫野が後を追う。

浅草の古着屋の倉庫。金之助・夏・林太がやってくる。ウクレレを弾きながら、歌う。

三人

「きよしこのよる、ほしはひかり、すくいのみこは、まふねのなかに、ねむりたもう、いとやすく」

そこへ、ラヂオがやってくる。

ラヂオ

何だ、この騒ぎは。稽古だよ、スリの。

夏ラヂオ

歌とスリと、何の関係があるんだ。

夏

あと五日でクリスマスだろう？ 上野も浅草も、買い物客でいっぱいさ。そこで私らが歌ってみなよ。たくさんの人が立ち止まって、聞き惚れる。その

ラヂオ

隙に、財布をいただくって寸法さ。聞き惚れるわけねえだろう、そんな下手クソなギター。

林太

ギターじゃなくて、ウクレレだ。おまえ、見たことねえのか？ ああ、前にラヂオで聞いたことがある。ハワイアンだっけ？ 最近流行って

ラヂオ

るんだよな。ちよつと貸してみろ。(とウクレレを取る)

林太

おいおい、ウクレレってのは、見た目ほど簡単じゃねえんだぞ。

ラヂオ

夏

ラヂオ

金之助

ラヂオ

金之助

ラヂオ

夏

ラヂオ

夏

ラヂオ

夏

ラヂオ

夏

ラヂオ

夏

ラヂオ

ラヂオ

林太

（ウクレレを弾きながら）「きよしこのよる、ほしはひかり」  
何よ。あんた、前にも弾いたことがあるのね？

ねえよ。（林太に）見た目通り、簡単じゃねえか。（とウクレレを返して）  
もつと練習しろ。なんなら、俺が教えてやってもいいぜ。

下っ端のくせに、偉そうな口を叩くな。

俺はおまえらの仲間になったわけじゃねえ。

だったら、とつとと出て行け。ただし、指は置いてってもらうぜ。

クソ！

あんたの指は明智が買ったんだ。明智の仕事をやるしかないんだよ。心配は

いらぬよ。母ちゃんの言う通りにすれば、きつとうまくいく。

全く恐ろしいババアだな、おまえらのお袋は。

母ちゃんのこと、悪く言ったら、承知しないよ。

へえ、おまえ、意外と母親思いなんだな。

当たり前じゃないか。私みたいな可愛げのない娘をここに置いてくれたんだ

から。

おまえ、あのババアの本当の娘じゃねえのか？

私は孤児だよ。林太も金之助も。震災で親も家もなくして、途方に暮れてた

ら、母ちゃんが声をかけてくれたんだ。家においでって。

それでスリを仕込んで、上前をハネてるってわけか。

それ以上言うと、指の骨をへし折るぞ。

林太がラヂオの胸ぐらをつかむ。そこへ、明智・いねがやってくる。



いね  
金之助

何をしてるんだい？  
踊りの稽古だよ。歌を歌いながら、踊りを踊るのもいいんじゃないかと思つて。なあ、林太？

林太

(ラヂオに) ターンをする時は、首を残すんだ。よく覚えとけ。

いね

踊りはまた後でやりな。おまえらに大事な話があるんだ。

夏

作戦が決まったの？

いね

ああ。明智さんと相談して、組を二つに分けることにした。一つ目は、設計図を掏る組。いつも通り、三人でやってもらうけど、中身は少し変えるよ。

金之助

まさか、(ラヂオを示して) こいつを入れるって言うんじゃないだろうか？

いね

そのまさかだよ。ラヂオ、あんた、なぜ私らがカマイタチって名乗ってるか、知ってるかい？

ラヂオ

あんたが妖怪みたいだからじゃねえのか？

明智

カマイタチのように、常に三人で行動するから。(いねに) 違うかい？

ラヂオ

どういうことだ？

明智

妖怪カマイタチの正体は、三人の兄弟なんだ。長男が獲物を転ばして、次男

いね

が風を起こして切り裂いて、三男が葉を塗って去っていく。

その通り。一人では難しい仕事でも、三人で協力すれば簡単になる。スリだ

って同じさ。一番手が相手の注意を引いて、その隙に二番手が財布を掏って、

三番手に渡す。相手が気づいて、二番手を捕まえても、財布は三番手が持ち

去った後さ。まあ、大抵は気づかれないんだけどね。

上野駅では気づかれてたぜ。よっぽど下手クソだったんだろな。

それは俺のことか？

他に誰がいるんだよ。

ラヂオ  
金之助  
ラヂオ

金之助  
いね 母ちゃん、俺はイヤだ。こんなヤツとは組みたくねえ。そいつはちよど良かった。おまえには別の仕事をやってもらおうと思ってたんだ。

金之助  
いね 何だって？  
よく聞きな。設計図を掏る組は、次の三人だ。一番手は夏、二番手はラヂオ、三番手は林太。

金之助  
いね 待てよ。二番手は俺じゃねえのか？

金之助  
いね 金之助は、屋敷に忍び込む組。明智さんの助手だよ。  
冗談はやめてくれ。(ラヂオを示して) こんなヤツに俺のかわりがつとまると思うか？  
いね 思うね。おまえだってわかってるはずだよ。ラヂオの方が、腕は上だって。

金之助が走り去る。

夏  
いね 母ちゃん、ひどいよ。何もあんな言い方しなくたって。

林太  
いね あの子にはいい葉だよ。近頃、少し付け上がってるからね。  
母ちゃん、(ラヂオを示して)俺はこいつより、金之助の方がいい。

夏  
いね 私はラヂオと組めと言ったんだ。聞いてなかったのかい？  
林太、金之助を連れ戻してこよう。早く。

夏・林太が去る。

いね (ラヂオに) 私は別にあんたの腕を認めたわけじゃない。明日からみっちり

ラヂオ 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智  
ラヂオ 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智  
ラヂオ 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智  
ラヂオ 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智  
ラヂオ 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智  
ラヂオ 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智  
ラヂオ 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智  
ラヂオ 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智  
ラヂオ 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智  
ラヂオ 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智 明智

稽古してもらおうよ。  
俺はまだやるって言ってねえぜ。  
まさか、断るって言うんじゃないだろうな？  
あんた、一体どういうつもりだ？  
何が。  
一昨日、上野で会った時、スリはやめろって言ったよな？ それなのに、今度はスリをしるなんて、おかしくねえか？  
おかしくないさ。人の金を盗むなんて、ろくでもないヤツのすることだ。しかし、その技術が何かの役に立つにしたら？ 世界が救えるとしたら？ 大袈裟なことを言うな。スリが世界なんか救えるもんか。  
それが救えるんだよ。  
美汐はどうなんだ。俺が設計図を掏ったら、美汐は自由になれるのか？  
潔はなぜ美汐を屋敷に閉じ込めていると思う。答えは人質だ。設計図に手を出したら、美汐の命はない。潔はそう言いたいんだ。  
あんた、美汐を見殺しにするつもりか？  
バカ、俺を見くびるな。美汐は、俺と金之助が助け出してくる。おまえが設計図を掏っている間に。  
俺はそっちの組の方がいいな。  
わがままを言うんじゃないよ。あんたの指は明智さんの物なんだよ。  
（ラヂオに）うまく行ったら、指はおまえに返してやる。  
（ラヂオに）さあ、やるのか、やらないのか。  
やるさ。（明智に）でも、あんたのためじゃない。世界のためでもない。美汐のためにやるんだ。

いね よし、じゃ、稽古だ。私についてきな。  
ラヂオ どこに行くんだ？  
いね 丸々と太った財布がウヨウヨしてる街。銀座だよ。

明智が去る。  
銀座の路上。通行人が次々と歩いてくる。ラヂオがその間を歩き、次々と財布を掏る。

ラヂオ (いねに財布を渡して) どんなもんだい。  
いね 威張るんじゃないよ。どれもこれも、中身は小銭じゃないか。こんな財布だ  
ラヂオ ったら、素人でも掏れるさ。  
いね でも、大金を持つてるやつは、周りを警戒してるじゃねえか。  
ラヂオ それを掏るのが、玄人なんだよ。見てごらん。(と指差して) 向こうから、  
ラヂオ アタツシケースを持った男が歩いてくるだろう。あの中身を掏ってきな。  
いね 無茶言うなよ。そんなこと、できるわけねえだろう。  
ラヂオ できるよ。  
いね でも、鍵がかかってたら？  
ラヂオ 鍵を開ければいいじゃないか。ほら、早く行きな。  
いね 無理だ。気づかれるに決まってる。  
ラヂオ なぜそうやって、頭から決めてかかるんだい。見てな。  
いね

アタツシケースを持った男が歩いてくる。いねが男に近付いて、並んで歩く。いねが  
立ち止まる。男が去る。いねがラヂオの所に戻ってくる。

いね  
ラヂオ

いね  
ラヂオ

いね  
ラヂオ

いね  
ラヂオ

いね  
ラヂオ

いね  
ラヂオ

シケた野郎だね。金目の物はこれしか入ってなかったよ。(と万年筆を出す)

それ、ケースの中から掏ったのか？

あんた、見てなかったのかい？

だつて、あんたの動きが速すぎて。一体どうやって掏った？ 鍵はかかつて

なかったのか？

かかっていたさ。だから、まずは背広の内ポケットから鍵を掏った。次にその

鍵でケースを開けた。相手に気づかれないように、ほんの少しだけね。で、

こいつを抜き取って、ケースを閉めて、鍵をかけて、その鍵をまたポケット

に返した。所要時間は八秒。

すげえな、あんた。

凄くなんかないさ。私が現役の頃は五秒でできた。あんたにも、五秒ででき

るようになつてもらうよ。

あんた、俺を買い被つてねえか？ 俺はあんたみたいな妖怪じゃねえ。

うら若き乙女に向かつて、妖怪妖怪、言うんじゃないよ。いいかい、ラヂオ

人の指つていうのは、なかなか良くできてるんだ。ウクレレも弾ければ、設

計図も書ける。五秒もあれば、大抵のことはこなせる。あんた、春日の娘に

惚れてるんだらう？

いや、俺は別に。

その子は屋敷に閉じ込められて、一人ぼっちなんだろう？ だつたら、あ

たのやるべきことは一つしかない。あんたが掏るのは設計図じゃない。その

子の胸の中の淋しさだ。ラヂオ、あんたの指で盗み取ってやりな。その子の

淋しさを。さあ、今度はあんたの番だ。

アタツシケースを持った男が歩いてくる。ラヂオが男に近付いて、並んで歩く。ラヂオが立ち止まる。男が去る。ラヂオがいねの所に戻ってくる。

いね 獲物は？

ラヂオ ごめん。緊張しちゃって。

いね バカ。男のくせに、ビビるんじゃないよ。失敗したら、逃げればいいじゃないか。ほら、また来たよ。今度やらなかったら、その指、ちよん切るからね。

アタツシケースを持った田川が歩いてくる。ラヂオが田川に近付いて、並んで歩く。ラヂオが立ち止まる。田川が去る。ラヂオがいねの所に戻ってくる。

いね やればできるじゃないか。で、何だい、それは？

ラヂオ さあ。(とノートを差し出す)

いね (受け取って) 日記帳だね。こんなつまらない物を掏って、何の意味があるんだい。バカ。(とノートでラヂオの頭を叩く)

ラヂオ 仕方ねえだろう？ 中身を確認する余裕なんかなかったんだから。

いね だったら、確認できるようになるまで練習だ。(と周囲を見回して) 一つ所にいると、お巡りに目をつけられる。別の通りに行こう。

ラヂオ・いねが去る。

ラヂオ放送。田川がやってくる。

田川 クリスマスまであと四日。今日は取材のために、銀座へ行って参りました。

天皇陛下のご病状が思わしくないとため、裝飾は控え目でしたが、それでもやはり大変な賑わい。ところが、そこで大事件が発生したので。私が命よりも大切にしている日記帳が、何者かに掏られてしまったのです。スリの方、もしこの放送を聞いていたら、お願いです。私の日記帳を返してください！

田川が去る。

浅草の古着屋の倉庫。ラヂオ・明智・いね・金之助・夏・林太がやってくる。

明智 作戦の決行日が決まった。十二月の二十四日、午後六時ちょうどだ。

ラヂオ 二十四日って、明日じゃねえか。

明智 そうだ。

ラヂオ いくら何でも、早すぎねえか？ 俺はまだ三日しか稽古してねえんだぜ。

いね でも、やるしかないんだよ。

ラヂオ (明智に) せめて、もう一週間待ってくれ。頼む。

明智 駄目だ。春日潔は明日の六時に、設計図を持って、帝都ホテルに行く。

ラヂオ 間違いないのか？

明智 おまえが銀座で稽古している間、俺は何をしていたと思う。春日の屋敷に張

りついて、電話を盗聴してたんだ。金之助と二人で。

ラヂオ (金之助に) そいつはご苦労だったな。

金之助 おまえのためにやったんじゃないか。

夏 (明智に) で、まんまと盗聴が成功したわけ？

明智 今から一時間前、潔は帝都ホテルに電話した。相手は、ポインティング社の社長、

ラヂオ ロナルド・ハックマン。

ラヂオ その名前は聞いたことがあるな。確か、ラヂオで言った。



明智

ハックマンが日本に来たのは、自分の会社の飛行機を売り込むため。というのは表向きで、本当の目的は、潔との取引。

夏

例の設計図を買いに来たんでしよう？

明智

何度も交渉を重ねて、ついに一時間前に取引が成立。明日の午後六時、帝都ホテルのハックマンの部屋で、設計図を渡すことになった。見ろ。これが帝都ホテルの平面図だ。

明智が平面図を広げる。五人が覗き込む。

明智

（平面図を指して）ここが正面玄関。潔はここから入ってくる。まずはフロントへ行つて、自分が到着したことをハックマンに知らせる。ハックマンからは、すぐに部屋に来るように言われるだろう。潔は直ちにロビーを横切り、階段へ向かう。二階に昇つて、廊下を歩いて、一番奥の貴賓室。ハックマンの部屋に到着だ。

いね

（ラヂオに）掏るのは、玄関からハックマンの部屋までの間。直線にして、二百メートルだ。

金之助

二百メートルって、どれぐらいの長さだ？

林太

百メートルが五十五間だから、約一町。二百メートルは約二町だ。

夏

とすると、普通に歩いたら、三分ぐらいだね。

ラヂオ

待てよ。たったの三分しかねえのか？

いね

あんたの仕事は五秒で終わる。三分もあれば、上等じゃないか。

明智

設計図がハックマンの手に渡ったなら、もう手の出しようがない。ヤツには、護衛が四六時中、張りついてるからな。おまけに、明日の朝には日本を発つ

夏  
明智

金之助

林太

夏

ラヂオ

明智

ラヂオ

明智

夏

明智

林太

明智

夏

明智

林太

夏

明智

金之助

て、アメリカに帰る。いいか、ラヂオ。設計図が手入れられるかどうかは、この三分にかかっているんだ。

ねえ、明智さん。その設計図って、そんなに値打ちがある物なの？

ハックマンはいくらで買い取ることにしたと思う。五十万ドル。日本円で、

百万だ。

百万だと？ それだけあったら、ざる蕎麦が何枚食えると思ってるんだ。

一枚十銭だから、一千万枚だ。

どうせなら、もっと高い物を食いなよ。

(明智に) 信じられねえ。ただの紙切れが、百万もするのか？

おまえ、ライト兄弟は知ってるか？

知ってるさ。世界で初めて飛行機を飛ばしたヤツらだろう。

そうだ。今から二十三年前、ライトフライヤー号って飛行機で空を飛んだ。

じゃ、その時の速度は？

百キロぐらい？

ライトフライヤー号の動力は手作りのガソリン・エンジンだった。時速はわ

ずか四十八キロ。

なんだ。車より遅いじゃねえか。

しかし、ガソリン・エンジンは次々と改良された。今の飛行機は、時速二百

キロで飛ぶ。

凄い。ライトフライヤー号の四倍？

ところが、春日伊知郎が開発したジェット・エンジンなら、さらに速度が上

がる。最後の実験では、時速八百キロに達した。

八百キロだと？ 信じられねえな。ところで、キロって何だ？

林太  
明智

夏

いね

ラヂオ

明智

いね

明智

ラヂオ

明智

夏

明智

今さら、そんな根本的なことを聞くな。明智さん、続きをどうぞ。  
(ラヂオに)ハックマンがなぜわざわざ日本に来たのか、これでわかっただ  
ろう。ジェット・エンヂンは、飛行機の歴史を確実に変える。さらに改良を  
加えれば、音速だって超えられるかもしれない。そうなったら、世界中のど  
こへでも、瞬時に飛んでいけるようになる。

凄く凄く凄く！

でもね、どんな物にだって、いい面と悪い面があるんだよ。

何だよ、悪い面て。

八年前の世界大戦で、飛行機は兵器として使われ始めた。空から爆弾を落と  
す、爆撃機ってヤツだ。おかげで、死者は爆発的に増大した。ジェット・エ  
ンヂンは間違いなく、爆撃機に組み込まれるだろう。そうなったら、死者は  
さらに増大する。

戦争はたくさん殺した方が勝ちだ。世界中の国がジェット・エンヂンをほし  
がるだろうよ。

ジェットっていうのは、日本語で噴射って意味なんだけどな。他にもう一つ  
意味があるんだ。

何て意味だよ。

黒。石炭の、あの真っ黒い色をジェットと呼ぶんだ。ジェット・エンヂンは  
すばらしい。が、使いようによっては、人殺しの道具にもなる。そんな物を  
ハックマンに渡すわけには行かない。

でも、私らがその設計図を盗んだとしても、予備が取ってあるんじゃない？  
書き写したりしてさ。

もちろん、写しは自宅の金庫に保管してあるだろう。だから、そっちは俺と

いね  
ラヂオ

金之助でいただく。  
帝都ホテルに行くのは、夏、林太、ラヂオの三人だ。わかっているね？

(明智に) あんた、さっき、こう言ったよな？ ジェット・エンジンを改良すれば、どこへでも飛んでいけるようになるって。

明智

それがどうした？

ラヂオ

月は？ 月にも行けるようになるか？

金之助

バカ。ガキみてえなことを言うな。

ラヂオ

でも、そういう本があるじゃねえか。『月世界旅行』だっけ？

明智

ジュール・ヴェルヌか。そうだな。月世界旅行だって、そのうち、夢じやな

くなるかもしれない。十年後は無理だが、五十年後には、おまえも月に行けるかもしれないぞ。

ラヂオ

本当か？ すぐにコテツに知らせてやらなきや……。しまった。

夏

どうしたの？

ラヂオ

今日は三日目だった。俺、コテツに約束したんだ。三日以内に、必ず迎えに行くって。

明智・いね・金之助・夏・林太が去る。  
浅草のカフェー新世界。コテツがやってくる。

コテツ

ごめんください。ごめんください。

そこへ、藤子・つるよがやってくる。

藤子 コテツ 何だい、あんた。ここは子供が来る所じゃないよ。  
藤子 コテツ こちらに、小林ラヂオという者がお世話になつてると思ふんですが。  
藤子 コテツ 別にお世話なんかしてないけど、あんた、ラヂオの友達かい？  
藤子 コテツ 弟です。コテツって言います。  
藤子 コテツ ああ、あんたが。お兄ちゃんに会いに来たんだね？  
藤子 コテツ はい。兄はいますか？  
藤子 コテツ さあ、ここ二、三日、顔を見てないよ。ねえ、女将さん？  
つるよ 三日前に、カマイタチに連れていかれただろう？ あれが最後だよ。  
つるよ コテツ あの、兄はこちらで働いてるんじゃないんですか？  
つるよ コテツ ラヂオがそう言ったのかい？  
つるよ コテツ ええ。違うんですか？  
つるよ コテツ たまに雑用を頼むことはあるけど、従業員でわけじゃないよ。ラヂオの本職  
は別にあるからね。私はいつてもやめろって言ってるんだ。スリなんて危ない  
仕事は。  
藤子 コテツ 女将さん！  
藤子 コテツ (つるよに) 今、スリって言ったんですか？  
つるよ コテツ 違うよ。女将さんはリスって言ったんだ。リスっていうのは、道行く人にク  
ルミを売る商売でね。  
つるよ コテツ 藤子ちゃん、本当のことを教えてやった方がいいよ。この子は実の弟なんだ  
から。(コテツに) あんたの兄さんはスリだよ。人の懐から財布を掏って、  
その金でおマンマを食ってるんだ。  
つるよ コテツ 嘘です。  
つるよ コテツ 私が嘘について、何の得があるのさ。

コテツ  
つるよ  
コテツ

兄がスリなんかするはずがありません。兄の名前はラヂオですから。どういう意味だい？

ラヂオって名前は、亡くなった父が付けたんです。天羅地網。悪は必ず天によつて裁かれるべし。悪いことを決してしない、正しい心の持ち主になれ。

天羅地網の羅と地で、羅地男。

残念だけど、名前の通りにはなれなかったようだね。

つるよ  
藤子

女将さん、そこまで言わなくても。

(コテツに) まあ、カマイタチに捕まって、少しは懲りただろう。今頃、どこかの工場で、まじめに働いてるのかもしれないよ。さあ、用が済んだら、帰った、帰った。

つるよが去る。

藤子

すまないね。女将さんは悪い人じゃないんだよ。ラヂオがその通りで行き倒れになつてた時、助けてあげたのは女将さんなんだから。

コテツ

兄は、今日、迎えに来るって言ったんです。

藤子

何か、急ぎの用ができたんじゃないかい？ それで、どうしても行けなかつたんだよ。

コテツ

……

元氣をお出しよ。(キャラメルを出して) ほら、これでも食べて。

藤子

藤子がコテツにキャラメルを渡す。コテツが去る。反対側へ、藤子が去る。

ラヂオ　　ごめんな、コテツ。ごめんな。

ラヂオが去る。

本郷の春日邸の玄関。朋子がやってくる。後を追って、美汐がやってくる。

美汐

叔母様、お出かけですか？

朋子

潔さんと帝都ホテルに。言っておくけど、遊びじゃないわ。仕事よ。せっかくのクリスマススイブなのに、いやになっちゃう。

美汐

仕事のお相手はどなたですか？

朋子

なんて名前だったかしら。私、人の名前はなかなか覚えられなくて。

美汐

ロナルド・ハックマンじゃないですか？ポライニング社の社長の。叔父様は

朋子

その人に、設計図を売りに行くんじゃないですか？それはあなたに関係ないことよ。

そこへ、潔・筑紫野がやってくる。潔の手にはアタッシュケース。

潔

（朋子に）待たせたね。行こう。

美汐

叔父様、設計図を売るのはやめてください。

潔

（朋子に）話したのかい？

朋子

私は帝都ホテルに行くって言っただけよ。（美汐に）ねえ？

美汐

（潔に）ポライニング社はジェット・エンジンを爆撃機に使います。そうした



ら、またたくさんの人が死ぬんです。

それは戦争が起きたらの話だ。

起きないという保証はどこにもありません。だから、お兄様は設計図を取り

返そうとしたんです。

伊知郎はもう死んだんだ。死んだ人間に、とやかく言う権利はない。筑紫野、

戸締りに気をつけてくれ。何かあったら、すぐに警察に通報するんだ。

かしこまりました。

待ってください、叔父様。

美汐さん、いい加減にして。潔さんがしていることは、みんなこの家のため

なの。それは同時に、あなたのためでもあるのよ。

潔・朋子が去る。

筑紫野 お嬢様、今のお話は本当ですか？ 設計図をポーイング社に売るというのは。

美汐 本当よ。

筑紫野 しかし、潔様は大牟田様にこう仰いました。日本の航空機は世界一になると。

私はずつきり、国内の会社に売ることか。

美汐 明智さんが言っていたわ。叔父様は、大きな会社から順番に売っていくつもり

だ。

筑紫野 だとしたら、国内の会社が一番最後になります。もし、その前に戦争が起き

たら……。潔様がなさろうとしているのは、国を売ると同じことです。

美汐 だから、何が何でも、止めなさいいけないのよ。筑紫野、私を帝都ホテルに

行かせて。

筑紫野 かし、お嬢様が行っても、潔様をお止めすることはできないでしょう。  
美汐 筑紫野。  
筑紫野 お部屋にお戻りください。さあ。

美汐が去る。筑紫野が後を追う。  
浅草のカフェー新世界。ラヂオ・いね・夏・林太がやってくる。

いね 何だい、この店は。クリスマスイブだって言うのに、客が一人もないじゃないか。

ラヂオ あんまり流行ってないんだ。女給の質に問題があつて。

林太 わかる。俺だったら、絶対に別の店に行く。

ラヂオ (いねに)でも、ここにはラヂオがあるんだ。待つのに飽きたら、ラヂオを

夏 聞いてくれ。

いね どうする、母ちゃん？

私 気に入ったよ。腹が減ったら、おマンマもいただけ。作戦本部にはピ

ツタリだ。

そこへ、藤子・つるよがやってくる。

藤子 ラジオ。あんた、今までどこに行ってたんだい。心配してたんだよ。

ラヂオ 藤子さんが俺を？

藤子 昨日、ここにあんたの弟が来たんだよ。あんたに会いに。

ラヂオ コテツが？

藤子

ラヂオ

つるよ

ラヂオ

つるよ

いね

つるよ

いね

藤子

ラヂオ

藤子

ラヂオ

つるよ

つるよ

夏

つるよ

藤子

夏

つるよ

夏

あんた、あの子に約束したんだろう？ 昨日、迎えに行くって。あんたが来てくれなかったから、自分から来たんだよ。あの子、泣いてたよ。

俺にはどうしてもやらなきゃならねえ仕事があったんだ。

いよいよどつぷりスリにはまっちゃまったのかい？

違う。俺の仕事は――

ごまかすんじゃないよ。そこにいる人は、カマイタチのいねだろう？

前にどこかで会ったかい？

浅草で商売をやってて、あんたを知らないヤツはいないよ。

スリが有名になったら、おしまいだ。(ラヂオに) だから、私は引退したんだよ。

ラヂオ、あんた、カマイタチの仲間になったのかい？

そうじゃねえ。今度の仕事だけ、一緒にやることにしたんだ。

危ない仕事じゃないだろうね？ あんたにもしものことがあったら、コテツ

ちゃんはどうなるんだい？

俺のことなら、心配いらねえ。必ずうまくやってみせるさ。なあ、つるよさ

ん。実はあんたに頼みがあるんだ。

スリの片棒を担げて言うんなら、お断りだよ。臭いおマンマは食いたくないからね。

違います。この店を今夜一晚、貸してほしいんです。

冗談を言うんじゃないよ。これから、混雑する時間なのに。

女将さん、見栄を張るのは止めましょう。(夏に) この店で何をしようって

言うんだい？

連絡場所として、使いたいんです。ほら、ここには電話があるから。

藤子  
つるよ

いくら出す？

藤子ちゃん、勝手に交渉を進めるんじゃないよ。

藤子

まあまあ。どうせ客は来ないんですから、こいつらから銭をふんだくりましようよ。

いね

なかなか度胸のいい女給さんだね。で、いくらほしいんだい。

藤子

(つるよに)いくらにしますか？

つるよ

うちの店の上がりは、一日四十円から五十円だよ。

藤子

(いねに)百円。これ以上は、びた一文、負けられないよ。

いね

いいだろう。ほら、百円だ。(と金を渡す)

藤子

え？ そんなにあっさり出してくれるなら、もう一声。

いね

じゃ、あと一銭。(と金を渡して) これで準備は整った。夏、林太、ラヂオ、

林太

合点、承知の助！

ラヂオ・夏・林太が去る。

本郷の春日邸の居間。明智・金之助がやってくる。明智は懐中電灯を持っている。反対側から、筑紫野がやってくる。

筑紫野

あなたたち、ここで何をしているんです！

明智

メリークリスマス、筑紫野さん。これは僕から君へのクリスマス・プレゼントだ。(と懐中電灯を差し出して) 受け取ってくれ。

筑紫野

なぜこれを私に？

明智

君は今年一年、美汐の世話をしっぴかりやってくれた。そのお礼だ。

筑紫野

お気持ちはいれしいですが、あなたはサンタクロースではないし、私は子供ではない。受け取るわけには行きません。

金之助

タダでくれるって言うてるんだから、もらえばいいだろう。

筑紫野

あなた方の狙いはわかっています。これをやるかわりに、お嬢様を渡せとか何とか言うつもりなんでしょう。

明智

そう。それと、予備の設計図がほしい。君なら、潔の部屋の鍵が開けられるんじゃないかと思ってるね。

筑紫野

できませんよ、そんなこと。もしできたとしても、主人を裏切るわけには行きません。

金之助

ああ、めんどくせえ。プレゼントなんかいいから、さっさと縛っちゃまおうぜ。やめてください。それ以上、近寄ったら、人を呼びますよ。

筑紫野

おまえなあ、男なら、人に頼らずに、自分で戦えよ。(と筑紫野に歩み寄る) 筑紫野

紫野

それはいやです。私は暴力が嫌いなんです！

そこへ、大牟田が飛び出す。

大牟田

おまえら、ここで何をしている！  
クソ！

金之助

金之助が大牟田に殴りかかる。大牟田が避けて、金之助を殴る。金之助が倒れる。明智が大牟田の体をつかむ。大牟田が明智を振り飛ばし、殴りかかる。明智が避けて、転ぶ。大牟田が明智の体をつかみ、殴ろうとする。そこへ、美汐が飛び出す。手にはペーパーナイフ。

美汐

大牟田

美汐

大牟田

美汐

大牟田

美汐

大牟田

美汐

大牟田

美汐

大牟田

大牟田さん、やめてください！

美汐さん、ナイフを向ける相手を間違えてますよ。

いいえ、これでいいんです。大牟田さん、その人を放してください。

まさか、僕を刺したりしませんよね？

私の言う通りにしてください。

（明智を放して）美汐さん、僕にはわからない。あなたはなぜこんな男の味

方をするんです。こいつはあなりのお兄さんを殺した男なんですよ。

この人は私に思い出をくれました。

思い出なら、僕にだってあげられる。これから、僕と二人で作りましょう。

あなたと二人で？

僕はあなたを愛している。あなたも僕を愛している。

それはあなたの誤解です。

いいえ、あなたは気づいてないだけだ。信じられないなら、証拠を見せま

しょう。

大牟田が美汐に近づき、ペーパーナイフをつかむ。

大牟田

あなたには僕が刺せない。それは、あなたが僕を愛しているからだ。

大牟田が美汐を抱き締める。筑紫野が大牟田を懐中電灯で叩く。大牟田が倒れる。筑紫野がペーパーナイフを拾う。

筑紫野

それは違います。単なる動物愛護精神です。

美汐

筑紫野……。

筑紫野

私も動物は大好きです。しかし、お嬢様を傷つけるヤツは絶対に許しません。

金之助

いいのか、おっさん？　ご主人様にバレたら、クビだぞ。

筑紫野

何を言ってるんです。今のは、あなたがやったんでしょう？

金之助

俺が？

筑紫野がペーパーナイフを美汐に渡し、自分の右手を金之助に持たせ、自分から体を振  
じる。

筑紫野

痛い痛い痛い！　何をするんですか！

金之助

俺は何もしてねえ。

筑紫野

え？　潔様の部屋の鍵ですか？　わかりました。開けますよ。

筑紫野・金之助が去る。

美汐

明智さん、叔父様と叔母様は帝都ホテルに行きました。

明智

わかってる。そっちは、ラヂオが行ってる。

美汐

ラヂオ君が？

明智・美汐が去る。大牟田は倒れたまま。  
浅草のカフェー新世界。電話が鳴る。いねが受話器を取る。

いね  
つるよ

藤子

いね

藤子

いね

藤子  
つるよ

(受話器に) はい、こちら、新世界。

なんであんたが出るんだよ。ここは私の店だよ。

まあまあ、好きにさせてあげましょうよ。百円一銭ももらったんだから。

(受話器に) よし、これで一安心だね。え? ……そうかい。それは困った

ね。……わかった。あんたに任せるよ。じゃ。(と受話器を置く)

明智さんですか?

ああ。お嬢様も設計図も無事、手に入れたそうだ。ただ一つ、問題があつて

ね。お嬢様が帝都ホテルに行くって言ってるらしいんだ。

相変わらず、じゃじゃ馬ですね。でも、ラヂオは困るんじゃないかな。

なぜだい?

だって、見られたくないでしょう? 自分がスリをしてる所は。



日比谷の帝都ホテルのロビー。林太が走ってくる。反対側から、ラヂオ・夏が走ってくる。

林太

来たぞ！ 敵は二人だ。

夏

二人？

林太

潔のヤツ、女房を連れてきやがったんだ。

ラヂオ

大丈夫か、夏？

夏

何人来ようが、同じだよ。要は、敵が夢中になる話をすればいいんだ。

ラヂオ

なるべく長い話にしてくれよ。

夏

敵がロビーに入ってきたら、すぐに話しかける。後はあんたに任せたらね。

ラヂオ

わかってる。(と歩き出す)

林太

待てよ。おまえ、敵に顔を知られてるんだろう？ 顔を隠せよ。

ラヂオ

わかってる。(とマフラーを顔に巻く)

林太

ケツ、ビビリやがって。素人はこれだから困るぜ。

ラヂオ

文句があるなら、おまえが二番手をやれ。あ、おまえの腕じゃ無理か。

林太

なんだと？

夏

こんな所で喧嘩するんじゃないよ。ほら、さっさと物陰に隠れて。

ラヂオ・林太が物陰に隠れる。そこへ、潔・朋子がやってくる。潔の手にはアタッシュケース。夏が潔に歩み寄る。

夏 潔 夏  
（東北弁で）すみません。ちょっとお伺いしてもよろしいですか？  
何ですか、お嬢さん？

夏 朋子  
こちらのホテルに泊まるには、どうしたらいいんでしょう。

夏 朋子  
フロントに行つて、泊まりたいって言えばいいのよ。でも、今夜はちょっと難しいかもしれないわね。クリスマスイブだから。

（泣き出す）

夏 朋子  
どうしたの？ いきなり泣いたりして。

夏 朋子  
両親が田舎から出てきたんです。一生に一度でいいから、東京見物がしたい。そう言つて、青森から夜行に乗つて。浅草や銀座を案内したら、二人とも、とても喜んでくれて。

夏 朋子  
一生懸命、親孝行したのね？ 偉いわ。

夏 朋子  
二人は明日の始発で青森に帰ります。だから、今夜はゆっくり休ませてあげたいんです。今、外で私を待ってるんです。

夏 朋子  
おかしいな。外にはドアボーイしかいなかったよ。

夏 朋子  
あなた、ちゃんと見たの？  
見たよ。良からぬヤツに待ち伏せされたら、困るからね。たとえば、君のような。（と夏の腕をつかむ）

夏 朋子  
何をするんですか。放してください。

夏 朋子  
君の訛りは青森じゃない。山形だ。次からは、気をつけた方がいい。

そこへ、ラヂオが飛び出す。

ラヂオ

夏！

潔 これはこれは、ラヂオ君じゃないか。こんな所で何をしているんだい？

ラヂオ

俺は別に。

潔 なるほど。この子と逢い引きか。ほら、お返しにするよ。(と夏を突き飛ばす)

す)

朋子

(夏に) 何よ。あなたたち、グルだったの？

ラヂオ

(夏に) 大丈夫か、夏？

潔 まさか、君が宗像の側につくとはな。宗像に伝えたまえ。もう何をして、手遅れだ。諦めて、楽しいクリスマスを過ごせと。

潔・朋子が去る。そこへ、林太が飛び出す。

林太

バカ野郎！ 作戦が台無しじゃねえか！

林太がラヂオに殴りかかる。ラヂオが右手で顔を押しさえる。林太の拳がラヂオの右手に当たる。ラヂオが悲鳴をあげる。

夏

どうしたの？

ラヂオ

(右手を押しさえて) 林太の拳が人指し指に……。

夏

そんな……。(林太に) なんてことするんだよ、この唐変木！

林太

待てよ。悪いのはこいつの方だろう？

夏  
最初に失敗したのは、私だよ。（ラヂオに）とにかく、怪我の手当てをしよ  
う。こっちに来て。

ラヂオ・夏・林太が去る。

浅草のカフェー新世界。電話が鳴る。いねが受話器に手を伸ばすが、つるよが先に取る。

つるよ

ここは私の店だよ。（受話器に）はい、新世界です。……いねさん、あんた  
に電話。（と受話器を差し出す）

いね

（受け取って）もしもし。……ああ、夏かい。……慌てないで、ちゃんと説  
明するんだよ。ラヂオがどうしたって？

藤子

ラヂオに何かあったの？

いね

人差し指が折れたってさ。  
折れた？（受話器を取って）なぜそんなことになったんだい。訳を言いなよ。

藤子

藤子ちゃん、あんたは関係ないだろう？

つるよ

（受話器に）何だって？ 設計図を掏る前に、正体がバレた？

いね

悪いけど、返してくれないかい？  
（受話器に）バカ！ 仲間同士で喧嘩して、何になるんだい。いいから、す  
ぐに帰ってきな。

藤子

（受話器を取って）藤子ちゃんの言う通りだよ。もう一度、作戦を練り直す。  
三人とも、戻ってきな。……何だって？

つるよ

今度はどうしたの？

いね

（受話器に）駄目だ。私は絶対に許さないよ。夏！ 夏！  
いねさん、何があったんだよ。

つるよ

いねさん、何があったんだよ。

いね  
藤子

（受話器を置いて）ラヂオのバカが、もう一回やるって言ってるって。指が折れたのにな？

日比谷の帝都ホテルの廊下。潔・朋子がやってくる。後から、ラヂオが走ってくる。

ラヂオ

待てよ！

朋子

ラヂオ君、あんまりしつこいと、嫌われるわよ。

ラヂオ

あんたに嫌われても、痛くも痒くもねえ。俺はあんたの旦那に用があるんだ。

潔

悪いが、僕は忙しいんだ。

ラヂオ

五秒でもいい。俺の質問に答えてくれ。

潔

僕はこれから人に会わなければいけない。時間に厳しい人でね。遅刻するわけには行かないんだよ。

ラヂオ

教えてくれ。ジェット・エンジンを改良すれば、月に行けるようになるのか？

ラヂオ

（顔を見合わせて笑う）

ラヂオ

何がおかしい。

潔

君という人間は、見かけと違って、想像力があるようだね。ぜひ、空想科学

ラヂオ

小説を書くといい。

ラヂオ

俺をバカにしているのか？

潔

当たり前だろう？ 月なんかに行つて何になる。

朋子

行きましよう、潔さん。

潔・朋子が歩き出す。ラヂオが後を追う。

ラヂオ 待てよ。俺は月に行けるか行けないか、聞いてるんだ。

そこへ、林太が飛び出す。

林太 行けるわけねえだろうが、バカ野郎！

潔・朋子が林太を見る。ラヂオが左手で潔の背広の内ポケットから鍵を取り出し、アタッシュケースの鍵穴に差し込み、回し、アタッシュケースを開け、中から封筒を取り出す。そこへ、美汐が飛び出す。

美汐 ラヂオ君！

潔 美汐、ここへ何しに来た。

朋子 あなた、アタッシュケースが！

ラヂオ (アタッシュケースを見て) ラヂオ、君か？

朋子 何のことだ？ (と後ずさりする)

ラヂオ 待ちなさい！ (とラヂオの右手をつかむ)

朋子 (悲鳴をあげる)

美汐 その手に持っている物を返しなさい。早く！

ラヂオ 叔母様、ラヂオ君を放して！

朋子 何を言ってるの？ こいつは薄汚いスリなのよ！

林太が朋子に飛びかかる。朋子がラヂオの手を放す。

林太  
ラヂオ  
美汐、来い！

ラヂオ・林太が走り去る。潔が拳銃を取り出し、ラヂオの背中に向かって撃つ。美汐が潔の腕をつかむ。潔が美汐の手を振り払う。美汐が倒れる。そこへ、明智が飛び出す。

明智

美汐！

久しぶりだな、宗像。

人違いじゃないか？ 僕は明智小五郎だ。

明智

生憎、僕はその名前を知らなくてね。大牟田君に教えられて、読んでみたよ。

『D坂の殺人事件』『二銭銅貨』『心理試験』。なかなかおもしろい読み物

だった。君があの名探偵だと言うなら、ぜひとも仕事を依頼したい。実は、

大事な書類をスリに拘られてね。それを取り戻してほしいんだ。

明智

あの設計図は、元々、伊知郎の物だ。

僕の依頼を断るって言うのか？ そんなことをしたら、美汐がどうなると思う。

う。（と美汐に拳銃を向ける）

あんたに美汐は殺せない。殺せば、あんたはおしまいだ。

明智

そうね。でも、足を撃つだけなら、死にはしない。そのかわり、大きな傷跡

が残るでしょうけど。

（潔に）美汐を傷つけたら、貴様を殺す。

明智

あなたがそんなことを言える立場なの？ 美汐さんを助けたかったら、さっ

さと設計図を取ってなさい。

潔

朋子、ハックマンの部屋に行こう。取引を延期してくれって頼まないで。

朋子  
潔

延期って、どれぐらい？  
二時間だ。（明智に）一時間後に、愛宕山に來い。そこで、設計図と美汐を交換する。

明智が去る。反対側へ、潔・朋子・美汐が去る。



本郷の春日邸の居間。筑紫野がやってくる。電話をかける。  
浅草のカフェー新世界。電話が鳴る。藤子が受話器を取る。

藤子 (受話器に) はい、こちら、作戦本部。

筑紫野 (受話器に) 作戦本部？ そちらはカフェー新世界ではないのですか？

藤子 その声は筑紫野さんだね？ 私、藤子。元気だった？

筑紫野 ええ、まあ。それより、そちらに、お嬢様から連絡はありませんか？

藤子 お嬢様なら、春日潔に捕まって、人質になったよ。

筑紫野 人質に？

藤子 潔のヤツ、ラヂオが設計図を掏ったら、怒っちゃって。お嬢様を返してほし

筑紫野 かったら、愛宕山に來いって。で、今、明智さんが向かってる。

筑紫野 わかりました。私も今から行きます。で、愛宕山というのはどこにあるんで

筑紫野 すか？

大牟田 (起き上がって) 愛宕山？

大牟田が走り去る。

藤子 どうしたんだい、筑紫野さん！

筑紫野

大牟田様に逃げられました。

藤子

この役立たず！

筑紫野

面目ありません。

筑紫野が受話器を置いて、走り去る。

藤子

（受話器を置いて）大牟田が逃げました。

つるよ

まさか、あいつも愛宕山に行っただんじやないだろうね？

藤子

どうしましょう、いねさん？

いね

浅草寺にお参りに行こう。

つるよ

なぜこんな時に？

いね

ここまで来たなら、あの子らに任せるしかない。私らにできるのは、精々、無

藤子

事を祈ることだけだよ。  
行きましょう、女将さん。

いね・藤子・つるよが去る。

愛宕山。美汐・潔・朋子がやってくる。

潔

どうした、美汐？ 気分でも悪いのか？

美汐

頭が痛むんです。さっき、叔父様が銃を撃った時から。

朋子

もう少しだけ我慢して。設計図が手に入ったら、屋敷に帰してあげるから。

美汐

（周囲を見回して）私、前にもここに来たことあります。

潔

四日前、ラヂオ君と来たんだ。

美 潔 美 朋 美 朋 美 潔 美 潔 美 朋 美  
汐 汐 汐 子 汐 子 汐 汐 汐 子 汐

もつと前です。子供の頃、私がまだ小学生の頃です。

あなた、記憶が蘇ったの？

（写真を取り出して）この写真は、ここで撮ったんです。誰かと遊びに来て、その人が記念に撮ってくれたんです。その人は、私よりずっと背が高くて、学生服を着ていて。

顔は思い出せるか？

明智さんです。この写真を撮ったのは、明智さんだったんです。

宗像は、伊知郎の幼なじみだ。横浜の屋敷には、君が生まれる前から出入りしていた。君は赤ん坊の頃から、宗像に遊んでもらっていたんだよ。

そうです。ここに来た時も、明智さんは私とかくれんぼをしてくれました。

私は明智さんが見つけられなくて、シクシク泣き出して。そうしたら、向この神社の方から歌声が聞こえてきて。（歌う）「あした浜辺をさまよえば」

浜辺の歌ね。あなた、その歌が大好きだったのよ。

私は明智さんと二人でここに来たんですか？ そんなはずないですよね？

兄も一緒に来たはずですよ。でも、思い出せない。兄の姿はどうしても思い出せないんです。

あなたは宗像君が好きだったんじゃない？ だから、宗像君のことしか見てなかったのよ。

（潔に）明智さんは兄の親友だったんですよね？ そんな人が、なぜ兄を殺したんですか？

ジェット・エンヂンの開発を止めるためだ。自分で開発を始めたくせに、突然、態度を変えたんだ。

それはなぜですか？

潔

事故が起こる一週間ほど前だ。君のお父さんが研究所に来た。実験を見学するため。その時、お父さんはこう言ったんだ。ジェット・エンジンを爆撃機に搭載すれば、日本は世界の空を制するだろうと。

朋子

(美汐に)それを聞いた宗像君は、わざと実験を失敗させたの。ジェット・エンジンを爆発させたのよ。

美汐

それじゃ、兄を殺すつもりはなかったんですね？

朋子

たえそうだったとしても、伊知郎君が亡くなったことに変わりはない。美汐さん、宗像君はお兄さんの仇なのよ。

美汐

私は明智さんを信じます。

潔

勝手にしたまえ。僕は宗像を許さない。伊知郎を殺したことも、設計図を奪

朋子

ったことも。  
潔さん、来たわ。

そこへ、明智がやってくる。

潔

(時計を見て)うん、時間通りだ。約束を守ってくれて、礼を言うよ。で、設計図は？

明智

(封筒を示して)ここにある。美汐と交換だ。

潔

地面に置いて、下がれ。早く。

明智が封筒を地面に置く。潔が拳銃を取り出し、明智の右腕を撃つ。明智が倒れる。美汐が悲鳴を上げて、明智に駆け寄る。そこへ、ラヂオが飛び出す。

ラヂオ

明智

美汐

明智！  
バカ野郎。来るなと言ったはずだ。  
美汐、そこを退け。  
（明智を庇って）いやです！

潔が拳銃を撃つ。

潔

明智

美汐

明智

美汐

ラヂオ

明智

美汐

今のはわざと外したんだ。しかし、今度は君を狙う。  
美汐、逃げろ。  
あなたを見殺しにはできません。  
こうなることはわかってた。俺のことはいいから、早く行け。  
いやです、お兄様！  
美汐、今、なんて言った？  
美汐……

ラヂオ

潔

美汐

……：向こうの神社の方から歌声が聞こえてきて、私は走ったんです。歌声を  
目指して。そうしたら、鳥居の陰から、あなたが顔を出して、ニッコリ笑っ  
た。私はあなたに向かって、お兄様って。  
でも、おまえの兄貴は死んだはずだ。  
美汐、今、思い出したことは忘れるんだ。  
叔父様、この人は私の兄なんですわ？  
そうさ。ジェット・エンヂンを爆発させたのは、宗像じゃない。伊知郎だ。  
しかし、春日家の長男がそんなことをしたなんて、世間に知られるわけには  
行かなかった。だから、伊知郎をアメリカに逃がしたんだ。



潔　ラヂオ、どこまで邪魔をすれば、気が済むんだ。  
ラヂオ　美汐が自由になれるまでだ。  
潔　偉そうな口を叩くな。二度とスリができなくしてやる。

潔が拳銃をラヂオの右手に向けて、引き金を引く。が、弾は出ない。

潔　何だと？（とラヂオを見て）おまえ、まさか？

ラヂオ　（掌の上の弾丸を見せて）悪いな。俺、人が死ぬのは見たくねえんだ。

潔　貴様！（とラヂオにつかみかかる）  
明智　やめろ！（と潔につかみかかる）

潔が明智の手を振り払い、拳銃で傷口を叩く。明智が倒れる。潔が美汐をつかむ。

潔　（明智に）設計図はどこだ。言わないと、美汐の命はない。

そこへ、大牟田が飛び出す。

大牟田　先輩、やめてください。

潔　大牟田、君は関係ない。

大牟田　関係ありません。美汐さんを傷つけるヤツは、僕が許さない！

大牟田が潔に殴りかかる。潔が避けて、美汐の体を放す。大牟田が潔を殴りかかる。潔が避けて、殴り返す。大牟田が避けて、潔を殴る。潔が倒れる。大牟田が潔の体をつか

む。

明智  
大牟田

明智  
朋子

朋子  
明智  
朋子

明智

美汐  
明智  
美汐

ラヂオ  
美汐  
明智  
美汐

大牟田君、もう十分だ。  
しかし……。

（潔が歩み寄って）ハックマンに伝えてくれ。設計図は売らないと。  
本物はどこにあるの？

ここに来る前に、燃やしたよ。屋敷の金庫にしまってた、写しも燃やした。

なぜそんなことを？ あなたは春日家がどうなってもいいの？  
俺にはもう関係ない。

あの設計図を売らなければ、春日財閥は潰れるの。美汐さんは住む家をなくすのよ。

しかし、死ぬわけじゃない。ジェット・エンジンが戦争に使われたら、何百万もの人間が死ぬんだ。（と歩き出す）

どこへ行くんですか？  
美汐、さよならだ。

どういうことですか？ もう会えないんですか？  
僕の頭の中には、まだ設計図が残ってる。そいつもさっさと消しちまわないと。ラヂオ、美汐を頼んだぞ。

待てよ。あんた、死ぬつもりか？  
行かないで、お兄様！（と明智に駆け寄る）

来るな！  
お兄様……。



明智  
ラヂオ

俺は親友を殺したんだ。  
でも、事故だったんだらう？ あんたが死んだら、美汐はどうなる。あんた、美汐を見捨てるつもりか？

明智

美汐はもう子供じゃない。僕がいなくても、やっていける。

ラヂオ

でも、たった一人の妹だらう。兄貴には、妹を守る義務があるはずだ。

明智

春日伊知郎は死んだんだ。三年前。宗像と一緒に。

美汐

そんなことはありません。お兄様は、今、私の目の前にいます。

明智

僕は春日伊知郎じゃない。明智小五郎だ。

明智が去る。

ラヂオ

美汐、後を追いかけよう。

潔

待ってくれ、美汐。

ラヂオ

あんた、まだ邪魔するつもりか？

潔

そうじゃない。(美汐に)伊知郎に伝えてくれ。おまえが死んでも、いつかは誰かがジェット・エンジンを開発する。それでもいいのかと。

美汐

わかりました。必ず伝えます。

ラヂオ・美汐・金之助・夏・林太が走り去る。潔・朋子・大牟田も去る。  
ラヂオ局。田川がやってくる。

田川

先程、入りました情報によりますと、今から五時間ほど前、日比谷の帝都ホテルで、何者かが拳銃を発砲したようです。幸い、死傷者はありませんでし

だが、犯人は逃亡中とのこと。帝都ホテルと言ったら、ここから目と鼻の先です。ひよつとすると、この近くを犯人が歩いているかもしれない。そう言えば、さつきも外で、おかしな音がしましたね。

そこへ、金之助・夏・林太がやってくる。三人とも、ウクレレを弾いている。

三人  
田川 「ジングルベル、ジングルベル、鈴が鳴る、そりを飛ばせて、歌えや歌え」  
うるさいうるさいうるさい！ 何ですか、あなた方は！ ここはスタジオですよ。勝手に入ってこないでください！

金之助 アナウンサーの田川さんだよな？ ちよつと頼みがあるんだ。

田川 あなた方の歌を放送しろって言うんですか？  
金之助 違う違う。実は今、俺たちの知り合いが人を探してて。この辺りを探し回ったんだけど、見つからなくて。で、ラヂオを使って、呼びかけたいって言ってるんだ。なあ、いいだろう？

田川 いいわけないでしょう。ほら、早く出て行ってください。

夏 あ、そんなこと言うんだ。(とノートを取り出して)「十二月十八日、晴れ。今朝、雷門の停留場で、藤子さんに会った。これで三日連続。僕は幸せだ」  
田川 その帳面はもしかして？

林太 (ノートを取って)「十二月十九日、晴れ。僕はついに決心した。今年のクリスマススイブこそ、藤子さんに僕の気持ちを一——」

田川 僕の日記帳じゃないですか！ どこで手に入れたんですか？  
金之助 (ノートを取って)こいつを放送されなくなかったら、言うことを聞いてもらおうか。

そこへ、ラヂオ・美汐がやってくる。

ラヂオ

頼む。一分だけでいいんだ。美汐に話をさせてやってくれ。

美汐

(田川に)お願いします。

田川

一体、あなた方は何なんですか。

五人

ザ・カマイタチ!

田川

一分だけですからね。そのかわり、日記帳は返してくださいよ。

金之助・夏・林太が田川を連れて去る。美汐がマイクに向かう。

美汐

お兄様、私の声が聞こえますか? もし聞こえたら、ほんの少しでもいい。立ち止まって、私の話を聞いてください。私はもう子供ではありません。一人でも生きていきます。でも、一人より二人の方がいい。悩んだ時には相談に乗ってもらえるし、淋しい時には一緒に歌が歌える。兄妹というのは、それが無条件で許される関係なのではないですか? 生まれた時からのは、それではないですか? せっかく兄妹として生まれたのに、友達にならないなんて、そんなの……。

美汐。

ラヂオ  
美汐

叔父様が言っていました。たとえお兄様が死んでもいつかは誰かがジェット・エンヂンを開発する。それでもいいのかと。科学の進歩は、誰にも止められない。だったら、最初に生み出したお兄様が、上手な使い方を考えればいい。ジェット・エンヂンが、ダイナマイトになるとは限らない。使い方次第で、

ラヂオ

すばらしい物になるかもしれない。もしかしたら、あの夜空に輝く月にだつて、行けるようになるかもしれない。お兄様なら、きっとできます。私を月まで連れて行ってください。お兄様……。

俺も月に行きてえな、コテツと一緒に。行かせてくれよ、明智さん！

ラヂオ・美汐が去る。

浅草のカフェー新世界。筑紫野が走ってくる。奥に向かって、叫ぶ。反対側から、藤子・つるよ・いねがやってくる。筑紫野が三人に紙を見せる。

藤子 「天皇陛下今廿五日午前一時廿五分葉山御用邸において崩御あらせられる」  
いね そうかい。とうとうお亡くなりになったのかい。まだお若いのに、お気の毒

つるよ なことだね。  
筑紫野 短かったね、大正の御世は。次の元号は何になるんだろうね。  
何にしても、明るい時代になってほしいものです。震災も戦争もない時代に。

そこへ、ラヂオ・美汐・金之助・夏・林太がやってくる。ラヂオは右手に包帯をしてい

夏 母ちゃん、ただいま!

筑紫野 お嬢様、お待ちしておりました。ご無事で何よりです。

美汐 私を迎えに来てくれたの?

筑紫野 当たり前じゃないですか。それで、潔様と朋子様は?

金之助 あの二人なら、お巡りに捕まったぜ。愛宕山から下りてきたところで。

夏 (筑紫野に) 実を言うと、お巡りを呼んだのは、私なんだ。「帝都ホテルで

筑紫野

美汐

ラヂオ

美汐

ラヂオ

美汐

つるよ

藤子

いね

金之助

いね

夏

林太

金之助

ラヂオ

夏

ラヂオ

鉄砲を撃った男は、今、愛宕山にいます」って。

春日家の当主が逮捕されたとなつたら、世間は大騒ぎです。(美汐に) しばらくホテルにでも身を隠した方がいいかもしれないね。

いいえ、私は屋敷に戻ります。だって、お兄様がいつ帰ってくるか、わからないもの。ラヂオ君、いろいろありがとう。そうだ。あなたに一つお願いがあるの。

何だよ。

スリはやめて。その手は、人の役に立つ仕事で活かして。(とラヂオの手を握る)

イテッ!

あ、ごめんなさい。(と手を放す)

でも、ラヂオにできることなんて、ラヂオの修理くらいしかないですよ。だつたら、電気屋になつたらどうかしら。この前、ラヂオで言っていましたよ。近頃、秋葉原の辺りに何軒かできてきたって。

いいじゃないか。(金之助たちに) おまえたちも一緒にやったらどうだい。でも、スリはどうするんだよ。

ラヂオであれだけ派手に名前を売っちゃまって、今さらスリができるかい。私、やりたい。金之助も林太もやろうよ。

やるやる。俺んち、酒屋だつたんだ。商いなら、任せとけ。社長は俺にやらせろ。店の名前はカマイタチ電気店だ。

俺はハリマ電気店がいいな。  
なんでハリマなの?  
死んだ父ちゃんの生まれ故郷なんだ。

筑紫野 つるよ いい名前じゃないですか。将来、大きな会社になりそうな予感がします。話に水を差すようで悪いけど、店を開くには資金が要るよ。

夏 そうか。

いね 明智のヤツ、支払いもせずにトンズラしやがって。今度会ったら、みじん切りにしてやるからね。

ラヂオ (美汐に) 兄貴、帰ってくるといいな。

美汐 私は帰ってくるって信じてる。皆さん、お世話になりました。

筑紫野 ご機嫌よう、皆さん。

ラヂオ 美汐、元気だな。

美汐 じゃあね、ラヂオ君。

美汐・筑紫野が去る。

藤子 いいのかい、追いかけてなくて。

ラヂオ うるせえ。

そこへ、明智がやってくる。右腕に包帯をしている。

明智 こんにちは。

藤子 あんた、今までどこに行ってたのよ。

明智 医者だよ。それより、いねさん、約束の礼金だ。(と札束をいねに渡す)

つるよ こんな大金、どうしたの？

明智 昨夜、潔の金庫を開けたら、札束が山のように入ってた。で、五千円だけ頂

金之助

戴したのさ。  
俺の知らない間に、そんなことをしてやがったのか。

明智

じゃあな、ラヂオ。

ラヂオ

お屋敷に帰るのか？

明智

いや、そのつもりはない。

ラヂオ

なぜだ。あんた、昨夜のラヂオを聞かなかったのか？

明智

何が、月に行かせてくれた。公共の電波で、勝手なことを言うな。

ラヂオ

俺のことはどうでもいい。帰ってやれよ。美汐に顔を見せてやれよ。（と明智の胸ぐらをつかんで）イテッ！（と手を放す）

明智

美汐に伝えてくれ。俺には時間が必要だ。ジェット・エンジンを使って、月に行くにはどうしたらいいか。それが思いついたら、戻るって。

ラヂオ

本当だな？  
その時は、堂々と本名を名乗ってみせるさ。春日伊知郎って。じゃあな。

明智

明智が去る。

いね

ラヂオ。あんたの分け前だ。（と千円分の札束を差し出す）

ラヂオ

（受け取って）いいのか？

藤子

良かったね。迎えに行つてやりなよ、コテツちゃんを。

いね

（ラヂオに）どうした？ うれしくないのかい？

ラヂオ

本当は、一昨日、迎えに行くはずだったんだ。それなのに、俺……

林太

一日や二日、どうつてことねえだろうが。

夏

（ラヂオに）そうだよ。笑って許してくれるよ。



金之助

行ってこい、ラヂオ。それで、うちに弟を連れてこい。今日から準備を始め  
るんだ。ハリマ電気店の。

ラヂオ  
つるよ

わかった。行ってくる。(と走り出す)  
待ちなよ、ラヂオ。行くのは、ラヂオを直してからだよ。

ラヂオがラヂオを叩いて、走り去る。

藤子

(スピーカーに耳を当てて) 女将さん、直ってます。

つるよ・いね・金之助・夏・林太がラヂオに歩み寄る。  
ラヂオ放送。田川がやってくる。

田川

たった今、政府により、改元の詔書が発表されました。新しい元号は昭和。  
昭和に決定いたしました。これにより、本日の日付は、昭和元年十二月二十  
五日となります。この昭和の御世が、長く、平和な時代になることを、心よ  
り祈念いたします。

日暮里の商家の裏口。コテツがやってくる。周囲を見回す。溜め息をついて、中に戻ろ  
うとする。そこへ、ラヂオが走ってくる。ラヂオの手には本。

ラヂオ  
コテツ  
ラヂオ

コテツ！  
あ、兄ちゃん！  
俺のこと、待ってたのか？

コテツ うん。  
ラヂオ ごめんな、約束、破って。  
コテツ ううん。

ラヂオ 仕事が長引いちまってな。でも、ちゃんと手に入れたぞ、五百円。  
コテツ それ、人から盗んだ物じゃないよね？

ラヂオ 違う。これは人助けをして、手に入れたもんだ。

コテツ 本当だね？

ラヂオ 俺は人の物には手はつけねえ。約束したんだ。美汐ってヤツと。

コテツ 誰、その人？ 兄ちゃんの恋人？

ラヂオ 違う。でも、俺の大切な人だ。バカ、恥ずかしいこと、言わせるな。コテツ、今日はクリスマスだったよな？ これ、おまえにクリスマスプレゼントだ。

コテツ (と本を差し出す)

ラヂオ (受け取って) 『月世界旅行』だ！

ラヂオ メリークリスマス、コテツ！

コテツがラヂオに抱きつく。ラヂオがコテツの頭を撫でる。